



中学校・高等学校軽音楽部

# 顧問通信

2021年6月号 VOL.35

※本誌に記載されている記事の内容や数字などの全部、または一部を無断で複製、引用することを禁じます。利用の際は当協会までご一報ください。



DiGiRECO.JR 2021年6月号

## 高文連軽音楽専門部／連盟の近況レポート

iPhone できる  
高音質／高解像度の映像撮影

初めての  
デスクトップ・ミュージック

職業としての  
音楽／エンタメ業界 2021

### DiGiRECO BAND CLINIC

- 第99回 愛知県立瀬戸窯業高等学校 PSLMC
- 第100回 名古屋経済大学市邨高等学校 軽音楽部
- 第101回 豊橋中央高等学校 軽音楽部  
愛知県立豊橋工業高等学校 音楽部
- 第102回 実践女子学園高等学校 軽音楽部



全国高等学校軽音楽連盟主催

第8回  
全国高等学校  
軽音楽コンテスト  
出場者募集!

令和3年8月20日(金)



特定非営利活動法人 (NPO法人)

全国学校軽音楽部協会 監修  
発行

# 全国学校軽音楽部協会は 「部活動は教育の一環である」の理念のもと 高等学校軽音楽部の活動を応援しています。

現在、全国で軽音楽系の部活動が活発に行われ、多くの生徒が軽音楽を通して様々なことを学んでいます。それは、軽音楽部の「自主性」や「責任感」の伴う活動が学習意欲の向上につながり、「コミュニケーション」「チームワーク」「クリエイティビティ」といった社会で必要とされるスキルを育てることができる部活動だと認知されてきたからだと思います。しかし、その一方で、他の部活動に比べるとまだその運営方法や指導方法などが確立しておらず、学校単位、各都道府県の高等学校文化連盟軽音楽専門部や軽音楽連盟単位での活動にとどまっているのが現状です。また、大会における審査基準やレギュレーション、校外活動の範囲、部活動とバンド活動との違いなどに統一された定義がないことが軽音楽部の発展の妨げになっていると思います。

今後、軽音楽部の社会的な認知と発展が進み、生徒が部活動として正しく活動できる状態にするには、文化庁をはじめ、各都道府県の高文連専門部や連盟、顧問の先生方と協力しながら、全国規模の交流ができる場を作ることや軽音楽部員への直接的な支援、及び指導が必要だと思います。

私たちは、このような支援活動を推進するには、公平性と中立性を保ちながら、情報公開を通じて広く一般の方の賛同を得ることができる特定非営利活動法人としての活動が望ましいと考え、本協会を設立しました。これまでも、情報誌の発行、大会や合同演奏会の運営支援、大会プログラムの発行、生徒や顧問への各種クリニックや講習会の開催、軽音楽連盟発足の支援などを行ってきました。今後も不特定、かつ多数の公益に寄与しながら、軽音楽を通して青少年の健全な育成を目指していきます。

特定非営利活動法人 全国学校軽音楽部協会

[keionkyo.org](http://keionkyo.org)





中学校・高等学校軽音楽部

# 顧問通信

■中学校・高等学校軽音楽部 顧問通信 VOL.35  
 ■JUN・2021 (第6巻3号通巻35号)  
 ■発行日：令和3年5月28日 (金)  
 ■監修・発行：特定非営利活動法人 (NPO法人) 全国学校軽音楽部協会  
 〒224-0003 横浜市都筑区中川中央1-37-6-405  
 TEL：045-913-0901 FAX：045-913-1900  
 E-Mail：info@keionkyo.org  
 ■企画・編集：株式会社ミュージックネットワーク

※本誌に記載されている記事の内容や数字などの全部、または一部を無断で複製、引用することを禁じます。利用する際は当協会までご一報ください。

編集長の言葉 ...4

全国学校軽音楽部協会とは... ...5

配布校リスト ...7

**高文連軽音楽専門部／連盟**  
**の近況レポート ...11**

iPhone ができる  
**高音質／高解像度の映像撮影 ...24**

初めての  
**デスクトップ・ミュージック ...26**

職業としての  
**音楽／エンタメ業界 2021 ...28**

## DiGiRECO BAND CLINIC

- 第99回 愛知県立瀬戸窯業高等学校 PSLMC ...18
- 第100回 名古屋経済大学市邨高等学校 軽音楽部 ...19
- 第101回 豊橋中央高等学校 軽音楽部  
愛知県立豊橋工業高等学校 音楽部 ...20
- 第102回 実践女子学園高等学校 軽音楽部 ...21

デジレコ・バンド・クリニック 開催校募集 ...22

第8回 全国高等学校軽音楽コンテスト 出場者募集 ...23

人のプレイ見て我がプレイ直せ  
**YouTubeの演奏映像を見るポイント ...30**

新年度スタート。  
 新入部員獲得と魅力的な部活動に  
**する方法 部活動運営の8つの提案 ...32**

写真で見る  
**知っておくべき軽音楽部員の基礎知識！ ...34**

**軽音楽部 2.0 ...35**  
 ～軽音楽部がさらに市民権を得るために～

**「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」  
 と軽音楽部の接点 ...38**

軽音楽部の大会における統一審査基準 (案) ...40



## 軽音楽部は間口の広い部活動になり得る

昨年からの新型コロナウイルスはデジャヴが連日連夜、ずっと続いているのではないかと錯覚するくらい、コロナのニュースを聞かない日はありません。軽々に是非を論じることはできませんが、それでも事実関係を元に客観的に報道して欲しいと切望します。経済活動が制限されても、生徒の時間は流れ続ける中、学校教育や部活動は立ち止まっていることはできません。今できることを粛々と進めていくしかありません。世間では「ピンチはチャンス」と言われます。また、ダーウィンの進化論では「変化に対応することが大事」と言われています。つまり、コロナ前に戻ることを祈るのではなく、ウィズコロナの時代に適応していくしかありません。

特定の楽器群の名称や音楽ジャンルを冠にした部活動ではなく、軽音楽部はなんとなくわかったようなわからないような曖昧な名称を持つ部活動で(笑)、多くの部活動の中で稀有な存在です。軽音楽ってなに、軽い音楽ってなに、多くの軽音楽部所属のバンドが演奏しているロックって軽い音楽なの…などなど。

一方、これまでの軽音楽部と言えば、楽器演奏者(プレイヤー)の集団でしたが、これからはその定義に幅を持たせる必要が出てくるのではないのでしょうか。表方と称される演奏者だけでなく、これまでは裏方とされていた分野の作業も前面に出てくる可能性が大いにあります。楽曲の素晴らし

さと演奏テクニックの素晴らしさを分離することで、演奏テクニックはさほどなくても、作詞や作曲に優れた能力を持つ生徒の居場所を生むことができます。先手を打って(笑)、今月号のデジレコ・ジュニアでは「初めてのデスクトップ・ミュージック」という記事を掲載しています。

他にも、TikTokに投稿する音楽とダンスを組み合わせたコンテンツ制作において、音楽は軽音楽部員が演奏し、ダンス部か、軽音楽部のダンス班が音楽に合わせたダンスを考案する。人気の高いYouTubeに動画を投稿するにしても、曲に合わせたストーリーを考えたりMVやPVの制作は構成や脚本を考える脚本班、録音/録画/編集を担当する録音録画班。そもそもの音楽ですら、楽器を演奏する演奏班。メロディーや歌詞からアレンジまでを考える作詞作曲班。作成した音楽を公共施設などで演奏するイベントを組み立てる企画制作班。部活動全体の動きを掌握するプロデューサーや進行担当のディレクターなど。枚挙に暇がないほど、チームの役割分担のネタは尽きません。

秒進歩するこの分野で、情報や知識の面で生徒の先を走ることは大変であり、それを束ねる顧問=教員の仕事は苦勞が尽きないことは明らかですが、生徒のニーズはこういう分野に向かっているのではないのでしょうか。「軽音楽部 3.0」の兆しを感じる今日この頃です。

では、また次号で…。

特定非営利活動法人 全国学校軽音楽部協会  
理事長 三谷佳之  
mitani@keionkyo.org  
Twitter @yoshiyukimitani



三谷佳之 YOSHIYUKI MITANI  
BLOOD SABBATH (www.bloodsabbath.com)

小学生で電気に興味を持つ。中学生でプリティッシュ・ロックに目覚め、将来はイギリスに住む!と妄想。英語は必須と直感。エレキ・ギターを弾きつつ、シンセサイザーに興味を持ち、楽器より電気に傾倒。国立奈良工業高等専門学校電気工学科に進学。ロックバンドを組むが長続きせず。在学中、興味の対象は広告宣伝や販売促進、マーケティングに移る。某電子楽器メーカーに就職後、最新テクノロジーだった通信事業に興味を持ち、9年間の勤務を経て、独立。ミュージックネットワークを設立。インターネットのない時代から音楽と通信ネットワークの分野で数々の日本初のビジネスを立ち上げる。2000年の少し前、インターネット業界では当たり前の「コンテンツは無料」というコンセプトを雑誌に応用した「無料雑誌」を思い付き、創刊。2013年、高校の軽音楽部向けの無料雑誌「DiGiRECO.JR」を創刊。2018年、大学の軽音楽サークル向けの無料雑誌「DiGiRECO.SR」を創刊。同年、特定非営利活動法人「全国学校軽音楽部協会」を設立。

音楽面では約10年前にバンドへの興味が再燃。ハードロック系イベントを主催する。その後、主催するよりも出演する方が楽しそう…ということで方向転換。高専生時代から好きだったヘヴィメタルの元祖「BLACK SABBATH」のトリビュート・バンド「BLOOD SABBATH」を結成。年間12回以上のライブを展開。編集長の立場を利用してBLACK SABBATHのメンバーに会うなど…やりたい放題の公私混同。2013年5月、直訳ロッカーの王様と日本語でBLACK SABBATHの名曲を演奏したアルバム「黒い安息日伝説」を発売。好調な売れ行きに気を良くして、現在、第2弾を計画。2015年5月、BLACK SABBATHのギタリストであるトニー・アイオミのトリビュート・アルバムに参加。世界デビューを果たす。

※ 会社のホームページで設立以来の活動を紹介しています

# 全国の中高大学の軽音楽部 を支援しています

## 全国学校軽音楽部協会とは…

現在、全国で軽音楽系の部活動が活発に行われ、多くの生徒が軽音楽を通して様々なことを学んでいます。それは、軽音楽部の「自主性」や「責任感」の伴う活動が学習意欲の向上につながり、「コミュニケーション」「チームワーク」「クリエイティビティー」といった社会で必要とされるスキルを育てることができる部活動だと認知されてきたからだと思います。しかし、その一方で、他の部活動に比べるとまだその運営方法や指導方法などが確立しておらず、学校単位、各都道府県の高等学校文化連盟軽音楽専門部や軽音楽連盟単位での活動にとどまっているのが現状です。また、大会における審査基準やレギュレーション、校外活動の範囲、部活動とバンド活動との違いなどに統一された定義がないことが軽音楽部の発展の妨げになっていると思います。

今後、軽音楽部の社会的な認知と発展が進み、生徒が部活動として正しく活動できる状態にするには、文化庁をはじめ、各都道府県の高文連専門部や連盟、顧問の先生方と協力しながら、全国規模の交流ができる場を作ることや軽音楽部員への直接的な支援、及び指導が必要だと思います。

私たちは、このような支援活動を推進するには、公平性と中立性を保ちながら、情報公開を通じて広く一般の方の賛同を得ることができる特定非営利活動法人としての活動が望ましいと考え、本協会を設立しました。これまでも、情報誌の発行、大会や合同演奏会の運営支援、大会プログラムの発行、生徒や顧問への各種クリニックや講習会の開催、軽音楽連盟発足の支援などを行ってきました。今後も不特定、かつ多数の公益に寄与しながら、軽音楽を通して青少年の健全な育成を目指していきます。

特定非営利活動法人 全国学校軽音楽部協会  
理事長 三谷佳之

## ご寄付のお願い

軽音楽部は部活動の1つであり、部活動は学校教育の一環です。学校教育であればこそ、公平性、中立性、継続性が大切です。それらを踏まえ、部活動を支援する団体としては特定非営利活動法人 (NPO 法人) の形態が望ましいと考えました。

軽音楽部の強みはバンドや音楽を通して、社会が求める人材を育成できることです。全国の軽音楽部がより良い活動ができるように応援したい…。当協会の理念や活動内容にご賛同いただける方々のご寄付をお待ちしております。

### 公平性

全国的に公平であることが求められます。都心の学校でも地方の学校でも機会が均等に提供されることが大切です。営利目的の費用対効果では測れません。

### 中立性

中立性が保障されることが求められます。生徒にとって本当に有益なサポートを提供できることが大切です。特定の企業に偏らず、中立な立場が求められます。

### 継続性

継続性を担保することが求められます。企業の業績の変動等の理由で支援が中断されるようなことがなく、継続的にサポートを続けることが重要です。

## 全国学校軽音楽部協会へのご寄付をお願いします

音楽・楽器ファンの方や軽音楽部の顧問の先生、父兄、OBやOGの皆様、軽音楽部を応援していただけるあらゆる方からのご寄付をお待ちしております。1,000円から受け付けています。

寄付に関するお申し込みはホームページをご覧ください。  
<https://keionkyo.org/sanjyo/>

# 軽音協の活動は皆様の寄付金で成り立っています

当協会の理念や活動内容にご賛同いただける方々のご支援をお待ちしております

## 軽音楽部は バランスの取れた 部活動です

軽音楽部は高校生の間で人気の高い部活動です。軽音楽部というと「音楽が好き」や「楽器演奏が楽しい」といった点が注目されますが、それだけではありません。バンドに大切なのは**コミュニケーションとチームワークとクリエイティビティー**です。軽音楽部は社会に出てから必要とされるこれらの能力を音楽やバンド活動を通して学ぶことができる部活動です。

### コミュニケーション力を育む



バンド活動はメンバー同士で相談しないと何も進みません。軽音楽部の活動を通して、自分の意見を伝えたり、相手の意見を聞くことで「コミュニケーション力」や「協調性」を育むことができます。

### チームワークを学ぶ



お互いの意見をぶつけ合い、お互いのことを知ることで団結力と仲間意識が生まれます。軽音楽部は文化部でありながら、運動部のような「チームワーク」と「責任感」を学ぶことができます。

### クリエイティビティーを磨く



オリジナル曲を作るのはもちろんのこと、既存曲をコピーする際にも自分たちならではの工夫やアイデアを凝らして楽曲を組み立てていくことで、「クリエイティビティー」を磨くことができます。

## 協会の主な活動と寄付金の使途

### 出版物の発行

- ・生徒向け「デジレコ・ジュニア」の発行（年間7回）
- ・顧問向け「顧問通信」の発行（年間7回）
- ・大会プログラムの発行（年間16冊）

### ガイドラインの提案

- ・大会審査基準／大会審査員
- ・外部指導員（コーチ）
- ・標準的な機材の提案

### 技術指導

- ・パートごとの実技指導・アンサンブル指導
- ・音楽理論や作詞／作曲講座
- ・音作り、楽器&電気への知識、音響の指導

### 合同演奏会・発表会の企画

- ・複数校の合同演奏会のコーディネート
- ・公共施設、地域行事などでの演奏会の企画
- ・音楽合宿のできるホテルの紹介

### 講評・審査員・外部コーチ

- ・合同演奏会のコメンテーター
- ・大会などのコンテストの審査員
- ・外部指導員（コーチ）の紹介 \*予定

### 他校・他県の情報

- ・顧問研修会&交流会
- ・新任顧問のための初級技術講習会
- ・県を跨ぐ顧問交流のコーディネート

### 機材選び

- ・予算に応じた楽器や機材選びのアドバイス
- ・騒音問題を解決する「オール電化」の提案
- ・サイレント・スタジオのデモンストレーション

### 販売／リース

- ・予算に応じた楽器や機材選びのアドバイス
- ・少ない初期投資で機材を揃えられるリース
- ・楽器や機材の販売、説明、メンテナンス







7466	堺市	大阪府立工科高等学校 軽音楽部	5948	神戸市	兵庫県立神戸北高等学校 軽音楽部	8367	広島市	広島県立安古市高等学校 軽音楽部	6100	福岡市	福岡市立博多工業高等学校 軽音楽部
7283	堺市	大阪府立堺上高等学校 軽音楽部	5847	神戸市	兵庫県立神戸鈴蘭台高等学校 キター部	8375	広島市	広島県立可部高等学校 軽音楽部	6104	福岡市	福岡市立福岡女子高等学校 軽音楽部
7967	堺市	大阪府立堺西高等学校 軽音楽部	5792	神戸市	兵庫県立須賀友丘高等学校 キター同好会	8380	広島市	広島県立砥根高等学校 軽音楽部	6129	福岡市	福岡市立福岡高等学校 キター部
7968	堺市	大阪府立堺東高等学校 軽音楽部	5929	神戸市	兵庫県立東通高等学校 軽音楽部	8388	広島市	広島県立五日市高等学校 軽音楽部	6130	福岡市	福岡市立福岡女子高等学校 軽音楽部同好会
7989	堺市	大阪府立高美高等学校 軽音楽部	5799	神戸市	兵庫県立高美高等学校 軽音楽部	8402	広島市	広島県立高美高等学校 軽音楽部	9448	福岡市	北九州芸術高等学校 福岡県ライオンキッズ(バ) 軽音楽部
8200	堺市	大阪府立高野高等学校 軽音楽部	5841	神戸市	兵庫県立工業高等学校 軽音楽部	8406	広島市	広島県立高野高等学校 軽音楽部同好会	6120	福岡市	立花高等学校 軽音楽部
8081	堺市	大阪府立高野高等学校 フォークソング部	5818	神戸市	兵庫県立工業高等学校 サンプル部	8406	広島市	広島県立高野高等学校 軽音楽部	6141	福岡市	福岡県立高野高等学校 軽音楽部同好会
8089	堺市	大阪府立東本島高等学校 軽音楽部	5819	神戸市	兵庫県立野田高等学校 キター部	8409	広島市	広島県立広島国泰寺高等学校 軽音楽部	6173	北九州市	印旛学園高等学校 軽音楽部
8097	堺市	大阪府立東雲高等学校 音楽部	5852	神戸市	兵庫県立東雲高等学校 キター同好会	8421	広島市	広島県立広島商業高等学校 軽音楽部	6175	北九州市	九州国際女子付属高等学校 軽音楽部
8105	堺市	大阪府立美原高等学校 軽音楽部	5869	西宮市	神戸学院高等学校 軽音楽部	8429	広島市	広島県立高陽高等学校 キター部	6150	北九州市	高陽高等学校 軽音楽部
8111	堺市	大阪府立福泉高等学校 軽音楽部	5862	西宮市	仁川学院高等学校 軽音楽部	8430	広島市	広島県立高陽高等学校 軽音楽部	6171	北九州市	自由ヶ丘高等学校 軽音楽部同好会
8115	堺市	大阪府立福泉高等学校 フォークソング部	5866	西宮市	西宮市立立西高等学校 軽音楽部	8413	広島市	広島県立高陽高等学校 フォークソング部	6155	北九州市	常盤高等学校 軽音楽部
4270	堺市	東大谷高等学校 軽音楽部	5858	西宮市	兵庫県立立西高等学校 軽音楽部	8416	広島市	広島県立高陽高等学校 軽音楽部	6162	北九州市	長崎高等学校 軽音楽部
4301	堺市	大阪府立福泉高等学校 フォークソング部	5856	西宮市	兵庫県立立西高等学校 フォークソング部	8416	広島市	広島県立高陽高等学校 軽音楽部	6178	北九州市	長崎高等学校 軽音楽部 第一部
4300	堺市	初志立命館高等学校 軽音楽部	5872	西宮市	兵庫県立立西高等学校 キター部	8428	広島市	広島県立立西高等学校 フォークソング部	6159	北九州市	長崎高等学校 軽音楽部
4265	堺市	大阪府立金岡高等学校 軽音楽部	5878	川西市	兵庫県立立西高等学校 軽音楽部	8437	広島市	広島県立立西高等学校 軽音楽部	6153	北九州市	福岡県立小倉東高等学校 軽音楽部
8082	三島郡	大阪府立本高高等学校 軽音楽部	5881	川西市	兵庫県立北川高等学校 軽音楽部同好会	8440	広島市	広島県立立西高等学校 キター部	6168	北九州市	福岡県立立西高等学校 キター部
7978	四條畷市	大阪府立四條畷高等学校 軽音楽部	5883	相生市	兵庫県立相生高等学校 軽音楽部	8448	広島市	広島県立立西高等学校 軽音楽部	6174	北九州市	福岡県立立西高等学校 フォークソング部
8035	守口市	大阪府立大和田高等学校 フォークソング部	5884	多可郡	兵庫県立立西高等学校 軽音楽部同好会	8449	広島市	広島県立立西高等学校 軽音楽部	6165	北九州市	福岡県立立西高等学校 軽音楽部
4294	守口市	大阪府立大和田高等学校 軽音楽部	5877	丹波市	兵庫県立立西高等学校 キター部	8451	広島市	広島県立立西高等学校 フォークソング部	6166	北九州市	福岡県立立西高等学校 キター部
4270	守口市	大阪府立大和田高等学校 軽音楽部	5907	淡路市	兵庫県立立西高等学校 キター部	8415	広島市	広島県立立西高等学校 軽音楽部	6178	北九州市	福岡県立立西高等学校 軽音楽部
7921	守口市	大阪府立立野高等学校 軽音楽部	5892	朝来市	生野学園高等学校 (バンド部)	8470	三原市	久米高等学校 軽音楽部	6187	北九州市	明志学園高等学校 軽音楽部
4297	守口市	大阪府立立野高等学校 軽音楽部	5798	朝来市	兵庫県立淡路三原高等学校 音楽部	8435	三原市	広島県立立西高等学校 音楽部	6183	柳川市	杉香高等学校 軽音楽部
7927	松原市	阪南大学高等学校 軽音楽部	5904	岡崎市	岡崎市立岡崎高等学校 フォークソング部	8373	山形県	山形県立立西高等学校 軽音楽部	8266	長崎県	活水高等学校 軽音楽部同好会
4289	松原市	大阪府立松原高等学校 軽音楽部	5895	岡崎市	岡崎市立立西高等学校 フォークソング部	8374	山形県	山形県立立西高等学校 フォークソング部	8844	長崎県	純心中学校・純心女子高等学校 軽音楽部同好会
8006	松原市	大阪府立立野高等学校 軽音楽部	5905	岡崎市	百合学院高等学校 フォークソング部	8455	山形県	山形県立立西高等学校 軽音楽部	8866	長崎県	長崎五成高等学校 軽音楽部
8067	松原市	大阪府立立野高等学校 軽音楽部	5901	岡崎市	兵庫県立立西高等学校 軽音楽部	8423	山形県	山形県立立西高等学校 軽音楽部	6160	北九州市	福岡県立立西高等学校 キター部
9407	豊川市	豊川市立豊川高等学校 軽音楽部	5892	岡崎市	山形県立立西高等学校 フォークソング部	8415	山形県	山形県立立西高等学校 軽音楽部	8859	熊本県	創道高等学校 軽音楽部
8009	豊川市	大阪府立立野高等学校 フォークソング部	5899	岡崎市	兵庫県立立西高等学校 軽音楽部	8376	東京都	広島県立立西高等学校 軽音楽部	8859	熊本県	創道高等学校 軽音楽部
8116	豊川市	大阪府立立野高等学校 フォークソング部	5894	岡崎市	兵庫県立立西高等学校 軽音楽部	8377	東京都	広島県立立西高等学校 軽音楽部	8859	熊本県	創道高等学校 軽音楽部
8024	豊川市	同志社豊川高等学校 軽音楽部	4274	岡崎市	兵庫県立立西高等学校 軽音楽部	8488	東京都	山形県立立西高等学校 軽音楽部	8909	菊池市	菊池女子高等学校 軽音楽部同好会
8095	吹田市	大阪学院大学高等学校 軽音楽部	5908	岡崎市	兵庫県立立西高等学校 フォークソング部	8382	名古屋市	山形県立立西高等学校 軽音楽部	8914	玉名市	熊本県立立西高等学校 軽音楽部同好会
7973	吹田市	大阪府立立野高等学校 軽音楽部	5907	美作市	兵庫県立立西高等学校 キター部	8432	名古屋市	山形県立立西高等学校 音楽部	8915	玉名市	熊本県立立西高等学校 キター部
7986	吹田市	大阪府立立野高等学校 軽音楽部	5924	姫路市	浄心学院高等学校 軽音楽部	8467	名古屋市	山形県立立西高等学校 キター部	8902	熊本県	熊本県立立西高等学校 キター部
4297	吹田市	大阪府立立野高等学校 軽音楽部	5924	姫路市	姫路市立立野高等学校 キター部	8467	名古屋市	山形県立立西高等学校 軽音楽部同好会	8902	熊本県	熊本県立立西高等学校 キター部
8014	吹田市	大阪府立立野高等学校 フォークソング部	5918	姫路市	姫路市立立野高等学校 フォークソング部	8438	名古屋市	山形県立立西高等学校 軽音楽部	8921	熊本県	熊本県立立西高等学校 フォークソング部
8118	吹田市	大阪府立立野高等学校 軽音楽部	5931	姫路市	姫路市立立野高等学校 フォークソング部	9022	尾道市	山形県立立西高等学校 軽音楽部	8925	熊本県	熊本県立立西高等学校 キター部
8000	摂津市	豊里高等学校 音楽部	5917	姫路市	姫路市立立野高等学校 フォークソング部	8475	尾道市	山形県立立西高等学校 軽音楽部	8936	熊本県	熊本県立立西高等学校 軽音楽部同好会
8033	摂津市	大阪英英女子学院高等学校 軽音楽部	5930	姫路市	兵庫県立立野高等学校 キター部	8473	尾道市	山形県立立西高等学校 軽音楽部	8977	熊本県	熊本県立立西高等学校 軽音楽部
4213	摂津市	大阪府立立野高等学校 フォークソング部	5912	姫路市	兵庫県立立野高等学校 軽音楽部	9534	尾道市	尾道高等学校 MUSIC 同好会	8922	熊本県	熊本県立立西高等学校 軽音楽部
8068	桜塚市	大阪府立立野高等学校 キター部	5932	姫路市	兵庫県立立野高等学校 軽音楽部	8445	府中市	山形県立立西高等学校 軽音楽部同好会	8928	熊本県	熊本県立立西高等学校 軽音楽部
7964	桜塚市	大阪府立立野高等学校 軽音楽部	5911	姫路市	兵庫県立立野高等学校 フォークソング部	8476	府中市	山形県立立西高等学校 フォークソング部	9331	熊本県	熊本県立立西高等学校 軽音楽部
801	東大阪市	大阪府立立野高等学校 軽音楽部	5927	姫路市	兵庫県立立野高等学校 フォークソング部	8377	福山市	山形県立立西高等学校 軽音楽部	9331	熊本県	熊本県立立西高等学校 軽音楽部同好会
4267	東大阪市	大阪府立立野高等学校 軽音楽部	5932	姫路市	兵庫県立立野高等学校 軽音楽部	8387	福山市	山形県立立西高等学校 軽音楽部	8933	上越県	熊本県立立西高等学校 音楽部
8129	東大阪市	大阪府立立野高等学校 軽音楽部	5949	明石市	兵庫県立立野高等学校 軽音楽部	8443	福山市	山形県立立西高等学校 音楽部	8965	八代市	熊本県立立西高等学校 軽音楽部
7917	東大阪市	大阪府立立野高等学校 軽音楽部	5917	明石市	明石工業高等学校 音楽部	8447	福山市	山形県立立西高等学校 軽音楽部	8940	八代市	秀島高等学校 軽音楽部
7942	大久保市	大阪府立立野高等学校 軽音楽部	5917	明石市	明石工業高等学校 音楽部	8479	福山市	山形県立立西高等学校 フォークソング部	9000	大分県	大分県立立野高等学校 軽音楽部
7977	大久保市	四條畷立野高等学校 軽音楽部	5965	姫路市	聖心学園中等教育学校 軽音楽部	8424	福山市	山形県立立西高等学校 軽音楽部	9004	大分県	大分県立立野高等学校 軽音楽部同好会
8133	大久保市	大阪府立立野高等学校 フォークソング部	5963	姫路市	奈良県立立野高等学校 Sound Art Society	8425	豊田郡	山形県立立西高等学校 軽音楽部	9040	大分県	大分県立立野高等学校 軽音楽部同好会
7982	池田市	池田市立立野高等学校 軽音楽部	5968	吉野郡	奈良県立立野高等学校 フォークソング部	8520	宇都宮市	鹿屋中学校 軽音楽部	9040	別府市	明志学園高等学校 軽音楽部
7926	池田市	大阪府立立野高等学校 軽音楽部	5967	吉野郡	奈良県立立野高等学校 軽音楽部	8494	宇都宮市	山口県立立野高等学校 軽音楽部	9087	宮崎県	日南学園高等学校 軽音楽部
8068	池田市	大阪府立立野高等学校 軽音楽部	5969	五條市	奈良県立立野高等学校 軽音楽部	8498	宇都宮市	山口県立立野高等学校 軽音楽部同好会	9045	延岡市	延岡学園高等学校 軽音楽部同好会
7988	東大阪府	アナン学園高等学校 軽音楽部	5973	御所市	奈良県立立野高等学校 軽音楽部	8500	下関市	下関学園高等学校 軽音楽部	9072	延岡市	延岡学園高等学校 軽音楽部同好会
7945	東大阪府	立野大学附属高等学校 軽音楽部	5979	桜井市	関西中央高等学校 軽音楽部	8558	下関市	下関学院高等学校 軽音楽部	9045	延岡市	延岡学園高等学校 軽音楽部同好会
4269	東大阪府	柳屋高等学校 軽音楽部	5977	桜井市	奈良県立立野高等学校 キター部	8529	山口県	山口県立立野高等学校 キター部	9073	延岡市	聖心ウルスラ学園高等学校 軽音楽部同好会
7928	東大阪府	大阪府立立野高等学校 フォークソング部	5985	八尾市	奈良県立立野高等学校 軽音楽部同好会	8562	山口県	山口県立立野高等学校 軽音楽部	9096	宮崎県	期野中学校 軽音楽部
7928	東大阪府	大阪府立立野高等学校 フォークソング部	5985	八尾市	奈良県立立野高等学校 軽音楽部同好会	9502	周南市	筑紫館中学校 軽音楽部	9079	都城市	都城市立立野高等学校 軽音楽部
7991	東大阪府	大阪府立立野高等学校 軽音楽部	4997	大加賀町	奈良工業高等学校 軽音楽部	8552	周南市	山口県立立野高等学校 軽音楽部	9078	都城市	都城市立立野高等学校 軽音楽部
8107	東大阪府	大阪府立立野高等学校 軽音楽部	5944	大加賀町	大加賀高等学校 第一 フォークソング部	8559	萩市	萩光学院高等学校 軽音楽部	9079	都城市	都城市立立野高等学校 軽音楽部
8108	東大阪府	大阪府立立野高等学校 軽音楽部	5991	天理市	奈良県立立野高等学校 音楽部	8538	美祿市	成進高等学校 軽音楽部同好会	9094	日南市	宮崎県立立野高等学校 軽音楽部
8109	東大阪府	大阪府立立野高等学校 軽音楽部	6005	奈良市	奈良工業高等学校 軽音楽部	8579	徳島市	徳島県立立野高等学校 軽音楽部	9081	北諸県郡	都城市立立野高等学校 軽音楽部
5737	東大阪府	大阪府立立野高等学校 軽音楽部	6007	奈良市	東大寺学園高等学校 軽音楽部	8679	徳島市	徳島県立立野高等学校 軽音楽部	9177	鹿児島県	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部同好会
8043	東大阪府	大阪府立立野高等学校 軽音楽部	6007	奈良市	奈良女子高等学校 軽音楽部	8600	徳島市	徳島県立立野高等学校 軽音楽部	9177	鹿児島県	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部
8087	東大阪府	大阪府立立野高等学校 軽音楽部	6002	奈良市	奈良県立立野高等学校 軽音楽部同好会	8600	徳島市	徳島県立立野高等学校 軽音楽部	9177	鹿児島県	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部
4292	藤井寺市	大阪女子短期大学高等学校 軽音楽部	6000	奈良市	奈良県立立野高等学校 軽音楽部	8614	鹿児島市	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部	9193	鹿児島県	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部同好会
8080	藤井寺市	大阪府立藤井寺高等学校 軽音楽部	6010	奈良市	奈良女子高等学校 軽音楽部	8614	鹿児島市	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部	9168	鹿児島県	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部
4293	藤井寺市	大阪府立藤井寺高等学校 軽音楽部	5996	奈良市	奈良女子大学附属中等教育学校 軽音楽部	8622	鹿児島市	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部	9126	指宿市	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部
8096	南河内郡	大阪府立立野高等学校 軽音楽部	6009	奈良市	奈良女子大学附属高等学校 軽音楽部	8622	鹿児島市	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部	9134	鹿児島市	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部
7938	柏原市	大阪府立立野高等学校 キター部	6007	奈良市	奈良女子大学附属高等学校 軽音楽部	8618	九尾市	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部	9133	鹿児島市	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部
8068	柏原市	大阪府立立野高等学校 軽音楽部	6007	奈良市	奈良女子大学附属高等学校 軽音楽部	8626	九尾市	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部	9143	鹿児島市	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部
8174	八尾市	大阪府立立野高等学校 軽音楽部	6002	奈良市	奈良県立立野高等学校 軽音楽部	8630	九尾市	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部	9137	鹿児島市	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部
8102	八尾市	大阪府立立野高等学校 軽音楽部	6002	奈良市	奈良県立立野高等学校 軽音楽部	8634	高松市	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部	9198	出水市	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部
8103	八尾市	大阪府立立野高等学校 軽音楽部	6144	海部郡	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部	9520	高松市	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部	9150	出水市	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部
8104	八尾市	大阪府立立野高等学校 軽音楽部	6146	海部郡	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部	8631	高松市	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部	9153	出水市	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部
7911	富田町	PL学園高等学校 軽音楽部	8143	海部郡	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部	9520	高松市	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部	9146	日南市	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部
7927	富田町	大阪府立立野高等学校 軽音楽部	8178	和歌山県	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部	8645	高松市	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部	9149	霧島市	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部
4283	富田町	大阪府立立野高等学校 軽音楽部	8178	和歌山県	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部	8646	高松市	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部	9217	霧島市	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部
8120	富田町	大阪府立立野高等学校 軽音楽部	8178	和歌山県	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部	8646	高松市	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部	9217	霧島市	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部
7970	豊中市	大阪府立立野高等学校 軽音楽部	8173	田辺市	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部	8690	松山市	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部	9217	うるま市	沖縄県立立野高等学校 軽音楽部
8015	豊中市	大阪府立立野高等学校 軽音楽部	8175	田辺市	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部	8685	松山市	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部	9214	うるま市	沖縄県立立野高等学校 軽音楽部
4295	豊中市	大阪府立立野高等学校 軽音楽部	8180	有田郡	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部	8703	松山市	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部	9225	うるま市	沖縄県立立野高等学校 軽音楽部
8113	豊中市	大阪府立立野高等学校 軽音楽部	8167	和歌山県	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部	8703	松山市	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部	9228	うるま市	沖縄県立立野高等学校 軽音楽部
8114	豊中市	大阪府立立野高等学校 軽音楽部	8182	和歌山県	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部	8731	安芸市	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部	9258	うるま市	沖縄県立立野高等学校 軽音楽部
9098	豊中市	大阪府立立野高等学校 軽音楽部	8183	和歌山県	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部	8731	安芸市	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部	9197	浦添市	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部
8048	豊中市	大阪府立立野高等学校 軽音楽部	8183	和歌山県	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部	8731	安芸市	鹿児島県立立野高等学校 軽音楽部	9196	浦添市	鹿児島県立立野高等学校

# 高文連軽音楽専門部／連盟の近況レポート

新年度が始まりましたが、全国各地ではコロナ禍で思うように活動ができない地域も少なくありません。公立高校と私立高校の間にも制限の違いがあり、一律の対応にはなっていません。夏の大会を早い時期に開催する地域では中止やオンラインに切り替えるところもあるようです。一方、コロナ禍の影響で、大会を含めて、無観客やオンラインによる演奏会が一気に一般化した一年とも言えます。解像度やレイテンシーなどの課題はありますが、その多くは時間が解決することでしょう。さらに言うと、三密回避という観点では、音

の出る軽音楽部には換気と騒音という二律背反する問題があります。その解決策として、軽音楽部の機材の「電化」が進んだのではないのでしょうか。生楽器から電気／電子楽器に切り替えることで音量を制御することができ、騒音問題のない音楽系部活動の実現が可能になりました。唾液の飛沫飛散防止のために、ボーカリストがフェイスシールドをしているところも多く見受けられますが、複数の生徒が1本のマイクロフォンを使い回すのではなく、自分専用のものを持つことが一般化すると衛生面も改善します。まさに新しい時

代の幕開け…軽音楽部のニュー・ノーマルの到来ですね。

以下、各県の軽音楽専門部／連盟の近況レポートを掲載します。新型コロナウイルスの感染拡大防止のための緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令され、それだけでなく校務に追われる中、情報提供に応じていただいた軽音楽専門部や連盟の方々に、この場を借りて御礼申し上げます。回答のあった地域の情報をそのまま掲載しますので、参考にしてください。なお、加盟校や生徒数は前年度の実績が含まれています。

## 北海道

### 北海道高等学校文化連盟軽音楽専門部

80校／約2,000名

田澤英貴／委員長  
北海道札幌厚別高等学校

### 北海道高等学校軽音楽連盟

41校／1,342名

北山義大／委員長  
札幌市立札幌旭丘高等学校

コロナ対策については、3密を作らないこと、使った後のマイクの消毒、換気の徹底、マスクをしない活動です。あとは各校での対応かと思えます。本校ではこのほかに、飛沫防止ビニールシートをフロントに置いています。

【今年度の大会予定：高文連軽音楽専門部】

5月 全道高等学校軽音楽大会

8月 第45回 全国総合文化祭

1校推薦 (5月全道大会グランプリ校)

【今年度の大会予定：北海道高等学校軽音楽連盟】

6月 第15回 全国高等学校軽音楽フェスティバル1校推薦 (WEB開催)

市立札幌平岸高校

8月 第8回全国高等学校軽音楽コンテスト

1校推薦 函館中部高校

12月 全道高等学校軽音楽新人大会

(WEB開催)

## 岩手県

### 岩手県高等学校文化連盟軽音楽専門部

20校／約530名

木村 健／専門部理事

岩手県立盛岡南高等学校

昨年度は新型コロナウイルス感染予防対策として、実際に多くの学校が集まったの大会開催はできず、各校の演奏動画をまとめて記録集(DVD)を作るという形で事業を実施しました。これにより、大会参加は各校2バンドという枠をなくし、1校15分以内なら何バンドでも可としたので、結果的に参加できる生徒数が増えたのは良かったと思います。また、完成したそのDVDを、例年お世話になっている専門家に送付して見ていただいた上でコメントを頂戴し、そのコメントもDVDに入れました。これにより、各校の演奏と評価をすべての学校で共有できる

ことになったため、大会の開催とバンドクリニックを同時に実施できたことになり、それなりに有意義なものになったのではと考えています。

ただし、一堂に会して人前で演奏し、その空気を共有して刺激を受けるという従来の方法とは大きく異なるため、その効果も実感しにくい点は否めず、ベストの方法だったのかどうかは今後の検証が必要かと思えます。

【今年度の大会予定】

昨年度DVDを作成し、参加全校でシェアできたことは良かったのですが、審査がなかったことを悔やむ生徒も一定数いました。そこで今年度は無観客実施の方向で検討することとしました。会場を工夫し、2会場を交互に使うことで消毒・換気の時間を確保し、その2会場を審査員が移動することで評価を行います。いろいろと準備や手配は大変だと思いますが、なんとか発表の場を確保できるよう準備をしていきたいと思えます。



## 宮城県

宮城県高等学校文化連盟軽音楽専門部

36校 / 1,360名

平澤和昭 / 軽音楽専門部理事

尚綱学院高等学校

まさに「コロナ禍」といえる一年間でした。昨年3月の全国一斉休校からの6月再開への対応、遠隔授業や「新たな生活様式」の実施など、新型コロナウイルスの影響から、これまでの学校教育は否応なしに構造変化を余儀なくされる事態となりました。本専門部でも宮城県高文連の要請により7月末までの活動はすべて中止せざるを得ない状況となり、生徒の安全第一の方針から「無観客」、「3密回避」など、これまでない形態での行事実施を模索しなければなりません。これからもこの課題にどのように対応していく、参加生徒の不利益にならない行事実施をいかに形成していくかが、次年度の大きな課題と認識しています。

### 【今年度の大会予定】

- 第27回 宮城県高校対抗バンド合戦（県大会）：7/18（日）
- 第6回 High School Premium Live 2021（県大会の上位イベント）：8/13（金）
- 第18回 宮城県高等学校対抗バンド合戦新人大会：11/6（土）
- 第7回 宮城県高等学校対抗バンド合戦1年生大会：12/18（日）

## 茨城県

茨城県高等学校軽音楽連盟

高野陽輔 / 委員長

茨城県立竹園高等学校

昨年度、本県の軽音楽系部活動もコロナ禍の影響で、様々な制限を受けることになりました。各校、感染防止のため工夫をこらし、可能な限りでの活動となりました。

連盟主催の夏の県大会については、一昨年の第1回と同様に7月末に行う予定でしたが、延

期をせざるをえませんでした。その後も検討と延期を重ねることとなり、最終的にライブ審査を断念し、動画審査となりました。14校35バンドが参加し、日頃の練習の成果を動画に収めました。無観客収録ながら動画の先で聴いてくれている方を思い浮かべて熱いパフォーマンスをみせてくれるバンドもあれば、練習が十分にできない中、できる限りの演奏してくれたバンドもありました。マスクを付けてパフォーマンスする生徒たちの姿は、コロナ禍中での部活動を象徴しているように感じました。同時にこのような状況だからこそ、目標となる大会がより必要なのだと実感しました。

今年度は新型コロナウィルス感染症の状況を注視しつつ、どんな形であっても県大会を実施することを第一目標としています。また、状況が許すならば、新人大会や合同講習会等も実施できたらと考えております。

### 【今年度の大会予定】

県大会：7月末に予定

## 埼玉県

埼玉県高等学校軽音楽連盟

53校 / 約1600名

齋藤教雄 / 事務局長

埼玉県立浦和高等学校

昨年度は、すべての連盟主催事業が中止、期間変更での実施となりました。特に、4月から9月の間、連盟の機能が完全に停止してしまいました。5月の総会、8月の埼玉県高等学校軽音楽コンテスト、9月の技術講習会について関係する多くの方々にご心配とご迷惑をおかけしたことをこの場を借りてお詫びいたします。

9月以降、新人大会に向けた検討に入りました。生徒たちが他校との交流を通して充実した活動になるよう支援していきたいところでしたが、まだまだ先の見えないコロナ禍の中で、生徒同士が対面するような形のライブ形式の大会は現段階では実施できないと判断し、予選、決勝ともオンライン形式でしました。学校によっては、活動が大きく制限されているという情報も耳にしていたので、中には新しい表現方法にチャレン

ジしている部活もあるのではないかとということで、「ライブ部門」の他に「MV部門」を設定しました。ライブ部門には44校97バンド、MV部門には14校20バンドのエントリーがあり、MV部門にはストーリー性に拘ったものからユーモアあふれるものまでバラエティに富んだ作品が集まりました。2月には例年行っているルーキーズフェスをオンライン実施する予定でしたが、年明けからの緊急事態宣言や部活動の制限を受け、延長を繰り返し、最終的に年度を跨いで、4月上旬での実施となりました。それにもかかわらず、37校81バンドの1年生バンドのエントリーがあり盛会となりました。

今年度も引き続き、予選はオンラインでの実施ですが、決勝は、対面でのライブ形式（夏の大会8月6日、市民会館おおみや大ホール）での実施を計画しています。参加校には大会の度に例年ない対応をお願いすることになっていますが、協力してコロナ禍の苦境の中でも埼玉県の高校軽音楽を盛り上げていきたいと考えておりますのでよろしくお祈りいたします。

※今年度の大会予定は連盟HPからご確認ください。  
<https://keionsaitama.com/>「各種事業」

## 千葉県

千葉県高等学校軽音楽連盟

28校 / 約500名

島晴己子 / 委員長

東海大学付属浦安高等学校・中等部

昨年度5月に千葉県の県大会中止が決定し、その後、役員校の顧問と部長でオンラインミーティングを重ね、代替イベントとしてオンラインコンテスト「けいおん夏祭り2020」を開催しました。コンテストと言っても審査は厳格なものではなく、生徒実行委員で企画、特設サイト作製、決勝発表映像編集などを行い、Web上でオーディエンス投票を行うなど、イベント的な内容を多く入れました。「自分たちの力をためたい」、「3年間の集大成にしたい」、「多くの人に自分たちの曲を聴いて欲しい」など、コンテストに参加する目的は様々でしたが、「こんなときだからこそ、音楽で表現したい」という生徒たちを微力ながら応援できたと思います。通常の大会では決勝まで進まなければ見ることができない他校の演奏を、すべて動画で見るこ

とができたことは、生徒や顧問にとって良い刺激となりました。

今年度は、夏大会（8月9日）、秋の新人コンテストともに例年通り開催する予定です。感染対策を十分にとり、感染拡大状況によっては大会途中での変更、中止も考えながら、大会が開催できることを信じ、生徒が実際に演奏できる場を準備していきたいと考えております。

## 東京都

東京都高等学校文化連盟軽音楽部門  
東京都高等学校軽音楽連盟

119校/約6,500名

佐々木弘人/委員長  
成女高等学校

昨年度は新型コロナの影響で、部活動、連盟活動ともに大きな制約を受ける1年でしたが、本連盟では、生徒たちに目標や夢を与えられる活動をなんとか行っていくと、役員が一致協力して臨みました。

毎年夏に行っている公式大会（東京都高等学校軽音楽コンテスト）は、生徒の安全を第一に中止の判断をしましたが、その代替として『音楽の力』と称する大会を開催しました。これは「コロナに負けずに軽音楽活動を！」をスローガンにしたオンライン大会で、感染拡大を防ぐ社会的責任を果たしつつ、生徒に目標を与えることを可能にした新しい取り組みです。生徒たちは感染症対策を施して作品制作を行い、運営側は、エントリー受付から審査まで、ほとんどをオンラインで行いました。大会の特性を生かし、『楽曲部門』『作詞部門』『打ち込み部門』の3部門を設けたところ、あわせて133ユニットの応募がありました。作品はどれも素晴らしく、コロナ禍ならではの工夫も凝らされていました。また、参加生徒や加盟校顧問から大会開催への感謝の言葉をたくさん頂戴し、まさに『音楽の力』を感じる大会となりました。

秋の公式大会（東京都高等学校文化祭軽音楽部門大会〔高校対抗バンドフェスティバル〕）は、生徒たちがステージで演奏できることを目標に準備を進めました。毎年、多大なる協力をくださる専門学校から、「残念ながら今年は厳しい」という連絡を受けるなど、開催が危ぶまれた時期もありましたが、なんとか予選から決勝まで対面での大会を行うことができました。2,000

名収容のオリンパス八王子ホールで行った決勝大会では、観覧者数をキャパの3分の1に抑えるなど、連盟独自の感染予防に関するガイドラインに基づき、万全の体制で臨みました。

今年度も、夏・秋の両大会をはじめ、様々な連盟活動を滞りなく行えるよう計画していますが、「コロナに負けず」生徒たちに活躍の場を提供していきたいと心しています。

なお、夏の大会の決勝は、8月6日（金）に、きゅりあん大ホール（品川区立総合区民会館）にて、秋の大会は、11月28日（日）に都内の大ホールで、とうきょう総文2022のプレ大会として開催する予定です。

## 神奈川県

神奈川県高等学校文化連盟軽音楽専門部会  
神奈川県高等学校軽音楽連盟

52校/約2,600名

橋 秀樹/委員長  
神奈川県立相模原弥栄高等学校

昨年度はコロナ禍の影響で、夏の軽音楽コンテストは早い段階で中止が決まりましたが、感染拡大が一段落してきた6月末あたりから、代替大会の開催の可能性を探っていました。神奈川県民共済様の協力を得て、音源審査による予選、県民共済みらいホールでのライブ決勝を無事に開催することができました。決勝は午前/午後の2部で完全入れ替え制、審査発表は後日WEBでと、徹底した三密対策をとり、無事に終了することができました。

秋の高等学校総合文化祭軽音楽コンクールは予定通り、音源審査による予選、海老名市文化会館でのライブ決勝を行うことができました。

技術講習会は専門学校横浜ミュージックスクール様がYouTubeに講習動画を配信してくださり、なんとか開催することができました。

今年度は、現時点では、夏のコンテスト、秋のコンクールとも開催する予定であります。また技術講習会は引き続き動画配信で行う予定です。

### 【今年度の大会予定】

第20回 神奈川県高等学校軽音楽コンテスト

決勝：8月10日（火）

会場：相模原市民会館

神奈川県高等学校総合文化祭

第19回神奈川県高等学校軽音楽コンクール

日程：令和3年12月12日（日）

会場：海老名市文化会館

## 長野県

長野県高等学校文化連盟軽音楽専門部

71校/約2,100名

金山幸信/事務局長  
長野県野沢南高等学校

昨年度は、本当に重く苦しい1年間であった。Power Live と銘打たれた、年6回（うち2回は地区内の単独の大会）実施される大会は、1つを除いてすべて中止となってしまった。最も心苦しかったのは、地区大会も県大会も中止になり、急遽企画した3年生のための発表会である。一定数の学校から応募があり、「最低限、3年生を最後のステージに立たせることができる」とほんの少しだけ安堵していたが、結局本番の数日前に、会場のあるエリアで新型コロナ感染者数が急増し、この発表会も中止せざるを得なくなった。

毎年、県総文祭に合わせて実施されるPower Live KF（県フェスティバル）が、昨年度、唯一実施できた大会になった。秋頃になって県内の感染者数が落ち着きを見せたことや、すべての大会が中止になることのダメージは計り知れず、何とかこの大会だけでもという思いから、出場者と顧問しか会館内には入れず、演奏が終わったらそのまま退館という完全無観客での実施とした。演奏者と審査員、音響スタッフなど、本当に極限られた人間しかいない空間で繰り広げられる演奏。大会が実施できたという実感と共に、参加者は楽しく気持ちよく演奏できているのか、という思いもあったのも正直なところ。だが、参加してくれたある生徒が「やっぱり大きいステージで演奏できるって楽しいね。いっぱいミスしたけど、楽しかったからミスなんてどうでもいいや」と言いながら帰って行く姿を見た時に、本当に救われた思いがした。

昨年度も「リモート形式」や「動画による審査」なども検討したが、ノウハウが十分ではないこと、何より生徒を大きなステージに立たせたいという思いからライブ形式に拘った。今年度も、ライブ形式に拘り、時間を区切ってその都度観客を総入れ替えすることで、同じ学校の部員は

観覧可能という形で大会を実施する予定である。加盟校からも文化祭以外のステージが用意されていることで活動の柱ができるのでありがたい、という温かい声も頂いている。可能な限りのコロナ対策を取って、何とか予定通り、生徒の輝ける場を用意したい。

【今年度の大会予定】

- ①第16回 長野県高等学校軽音楽系クラブ合同演奏会 中南信大会 Power Live 2021 CN  
日程：5月28日(金)・29日(土)  
会場：下諏訪総合文化センター
- ②第28回 長野県高等学校軽音楽系クラブ合同演奏会 東北信大会 Power Live 2021 TH  
日程：6月4日(金)・5日(土)  
会場：千曲市上山田文化会館
- ③第16回 長野県高等学校軽音楽系クラブ合同演奏会 県大会 Power Live 2021 K  
日程：7月30日(金)・31日(土)  
会場：長野市芸術館アクトホール
- ④第17回 長野県高等学校文化連盟軽音楽専門部県フェスティバル Power Live 2021 KF  
日程：11月26日(金)・27日(土)  
会場：小諸市文化会館

※大会予定に地区独自の大会は含んでいません

しました。軽音協の御協力をいただくことで定着してきた企画だけに、大変残念でした。

その後、12月27日(日)開催の第5回 新人大会は、会場ステージでのライブ審査形式での実施が叶いました。しかしながら、無観客はもとより、出場者も時間差集合と解散という形態を取り、お互いの演奏すら見られない寂しい形式でした。それでも、公式大会の連続見送りを避けられたことはコロナ渦にあっては一步前進だと考えています。

2021年度も、コロナウイルスは私たちの日常を脅かし続けています。4月中旬、2年振りに顧問総会を開催しました。事業計画は、今年度も特別体制で臨むこととなります。まず、新入部員初期指導セミナーを中止としました。次に、6月に開催する 第7回 静岡県大会も計画変更をします。無観客継続のため、会場規模を小さくしますが、出場者相互の会場内での鑑賞を可とします。また、初めてコピー曲部門とオリジナル曲部門の開催日を分けて開催します。これは、コピー曲部門へのエントリー数が多い静岡県の状況を鑑みた対応です。事後に検証を行い、今後の大会日程策定に向けての指針とします。夏以降には、2種類のセミナー開催を計画しています。しかしながら、これらも、その時期のコロナ禍感染警戒レベル次第となります。急な計画変更は混乱を招きますので、従前の慎重な判断を取らざるを得ません。今は、年末の第6回新人大会からの通常開催を願うものです。

らも全面的にご協力いただき、実施に向けての「ガイドライン」を作成し万全な体制で臨みました。そのおかげもあり順調にエントリーされ、最終的には23校23バンドの出場となりました。メンバー入場時には教員による全員の体温チェック、保護者も出場者以外の部員も含めて入場不可の無観客大会とし、出場メンバーのみの客席も間隔を大きくあけ、ステージ上での感染防止策も徹底しました。そのおかげで特に問題もなく無事に大会を終了することができました。県大会も8回を迎え、審査員の先生方からも着実にレベルが上がってきているとの好評をいただきました。休校期間や部活動禁止の間に蓄積したパワーと熱い思いが、ステージ上で惜しみなく発揮された素晴らしい大会となりました。

今年度は7月28日に第9回、12月25日に第10回愛知県大会を予定しています。愛知県大会では1校1バンドの出場で、各校の部員もかなり多くなったことから、ライブ審査を本年度から実施することになりました。その後、出場者に向けてのバンドクリニックを実施し、専門家からのコメントをいただいた上で本番までに最終調整をして大会に臨むこととなります。

**奈良県**

**奈良県高等学校軽音楽連盟**

8校/約300名

渡邊敬久/事務局長

奈良育英中学校高等学校

周知の通り、コロナ禍により学校現場は困窮を極めている。2020年3月から5月は一斉休校となり、近畿圏では6月以降各校でリモートを交えながら授業が再開されたところが多い。部活動は感染症対策を前提に進められたが、全国大会など主要なイベントは中止及び延期を逼られ、その内の多くがオンライン発表に切り替えられた。ネットワークや機器の利用に主戦場をうまく移行していた高校もあったが、ライブの実体験による積み重ねを筋合いとしていた本校のような場合は苦境で、演奏力の低下はもちろん、組織の維持にも困難が生じたように思う。奈良県連盟も然りである。

管理側の仕掛けは大切だが、直接的指導を介せない分、部員のモチベーションについてはクラブの仕組みよりも個人に備わる意欲に任された部分

**静岡県**

**静岡県高等学校文化連盟軽音楽専門部**

17校/約700名

小澤知彦/専門部長

静岡県立静岡西高等学校

コロナ禍に翻弄される中、2020年度上半期は、通常の専門部主催活動のすべてを中止しました。コロナ休校が5月末まで続いたことで、顧問総会は書面決議で行いました。また、6月開催の県大会も、3年生メンバーがいるバンドのみによる動画審査で結審しました。同時に、この大会限定の配慮として、全バンドに大会参加証明書発行を行いました。8月以降も、新入生初期指導、バンドアンサンブル指導、オリジナル楽曲制作指導の各種セミナーを悉く中止と

**愛知県**

**愛知県高等学校軽音楽連盟**

27校/約1,500名

中村弘之/委員長

名古屋経済大学市邨高等学校

2020年12月27日に第8回 愛知県高等学校軽音楽大会を実施することができました。全国学校軽音楽部協会に運営、実施を全面的に支えていただいていたの実施でした。協会との共催という形ではありますが、今回が連盟主催となる初めての記念すべき大会でしたので、これまで連盟設立に関わってこられた先生方には特に記憶に残る大会となりました。コロナ禍での実施ということもあり開催について様々な意見が寄せられましたが、全国学校軽音楽部協会にこち

が大きい。オンラインを基に幾何か目標を定めて進行したが、例年のような質のある時間創造に至らなかったことは否めない。部員のもつ多様な知的欲求の度合いが、2020年秋冬の「結果」に直結した感はある。部活動の世間的評価、コロナ禍における軽音楽部活動、共に部員の熱誠にはつながり難く、低迷からの創造という点については大きな影を落とすこととなった。

2020年冬から2021年春にかけて厳しい感染症対策の中でライブイベントが再開。無観客や常時換気など通例とは異なるが、それなりの環境で積み重ねた時間を放つということには大きな意義があるように思う。理解はしていたが、実践イベントがあることの有難さを改めて噛み締めたのは言うまでもない。奈良県連盟も感染症対策に留意した上で合同演奏会を開催した。前後共に体調不良者は出ていない。これらの経験を踏まえ、可能な範囲を模索しながら本年度は舞台設定をしていく予定である。

国の動向次第にならざるを得ないが、我々の時間軸とは異なり、高校時代を過ごす部員たちは「今」しかない。仕方ないで片付けることは簡単だが、「仕方」を創るのが管理者の責務と捉え、オンライン発表や交流の質を上げながら新しい可能性を築きたい。

#### 【今年度の大会予定】

奈良県高等学校軽音楽コンテスト（県大会）

日程：6月13日

## 滋賀県

### 滋賀県高等学校軽音楽部会

18校／約650名

村田 良／代表幹事

滋賀県立大津清陵高等学校通信部

昨年度は、緊急事態宣言下で春のイベントはすべて中止となり、本部会の第12回 軽音楽部クラブ対抗コンテストも協議の末、延期することにした（結局、中止となる）。第8回 全国高等学校軽音楽コンテストも中止になったが、高知全国総文祭がWEB大会に変更されたこともあり、各校で映像制作の取り組みが始まり、その結果、「全国高等学校選抜ロックフェス」の大津高校の金賞＆銅賞W受賞を始め、WEBコンテストで成果を出した。また、コロナ第2波に備えてICT

を駆使した遠隔セッションの研究をスタートさせ、8月の2020こうち総文 WEB SOUBUN 軽音楽部門では滋賀県立大津清陵高校と高知市文化プラザがるぼーと小ホールをネット回線で結び、WEB 遠隔セッションを成功させた。

一方で2学期からライブ活動を再開させるために滋賀県文化芸術振興課・大津市都市魅力づくり推進課・びわ湖芸術文化財団と情報を共有し、コロナ感染防止対策の準備を進め、9月「けいおんストリートLive Vol.7（特別編）@市民プラザ」、10月「合同練習会@お祭り広場」、11月「けいおんストリートLive Vol.8 @ブランチ大津京」と主催＆共催事業を交えながら野外ライブ3本立てを無事成功させた。そして満を持して12月に「2021 和歌山総文祭軽音楽部門代表選抜Live @滋賀県立文化産業交流会館大ホール」を、念願の屋内全員参加で実現することができた。1月に警戒レベルが上がった中でも「アンサンブルクリニック動画撮影会@草津東高校」、2月「1年生フレッシュバンド大会 @滋賀短大附属高校マルチホール」が各担当校の努力により実施され、その流れで各校主催の定期コンサートや卒業ライブなども、感染対策をしながら、予定通り3月に開催された。

今年度もコロナ禍が続き、多くのイベントが中止・未定状態であるが、昨年度の活動により部会の団結力が向上しており、実際、加盟校も18校に増えている。組織も大きくなってきたので高文連への加盟課題も含め、「黎明期の、人で動いていた部会」から「組織で機能する部会」へと組織改革が急務となってきている。

#### 【今年度の大会予定】

5月1日／軽音楽部会楽器勉強会@シライシアター（野洲文化ホール） 中止

6月4日／第13回 軽音楽部クラブ対抗コンテスト@シライシアター

（全国高等学校軽音楽コンテスト代表選抜）

9月／けいおんストリートLive  
（実行委員会主催 部会共催事業）

10月／とよさと軽音楽甲子園滋賀県大会  
（実行委員会主催 部会共催事業）

12月／とうきょう総文2022 軽音楽部門代表選抜Live

2月／1年生大会

## 京都府

### 京都府高等学校軽音楽連盟

16校／864名

小川香織／委員長

大谷高等学校

昨年度はコロナ禍により京都府軽音楽連盟のすべての大会が中止、または形式の変更を余儀なくされる状況でした。全国的にも同じような苦しい状況の中で、今できることを模索し続けた1年でもありました。

学校によって部活動の規制などは異なっており、活動の状況などは様々であったようですが、本校においてはオリジナル曲のミュージックビデオをリモートで制作しYouTubeで公開したり、定期コンサートを生配信したりなど、新しい試みにも取り組みました。

連盟主催のイベントについては、3月には緊急事態宣言発令により、恒例にしていた「春の合同演奏会」が中止となり、7月の府大会も中止となりました。引退前の3年生の最後の舞台となる府大会の中止を受け、部員たちの演奏をなんとかして校外に発表する場を設けたいと考え、11月には各校をZOOMでつないだオンラインイベントを企画・開催しました。手探りで始めた企画であったものの、3年生の最後の演奏を発表する場を作ることができ、その意義は大きかったと考えます。

また例年とは時期をずらし3月に「京都府高校軽音楽コンテスト新人大会」をオンライン開催し、それまでほとんど人前での演奏の機会がなかった1年生にとっても貴重な発表の場となりました。

この1年間で、オンラインでのイベントや大会開催のノウハウも少しずつ培われてきましたが、やはり対面での演奏や交流の場は貴重です。今年度は部員たちがライブ形式での発表の場に立てるような状況が訪れることを願うばかりです。

#### 【今年度の大会予定】

第5回 京都府高校軽音楽コンテスト

日程：7月22日または23日

## 大阪府

大阪府高等学校芸術文化連盟軽音楽部会  
高等学校軽音楽部連盟大阪

103校(104団体) / 4,745名

久谷秀明 / 連盟長

大阪府立桜塚高等学校

昨年度はほとんどの軽音連大阪主催のイベントが中止になってしまいました。ですが、できる限り行いたいという思いで、いくつかのイベントのみ行うことができました。

大きなイベントの1つである大阪府高等学校芸術文化祭(芸文祭)とその予選会は、なんとか行うことができました。また、他校の生徒とバンドを組んで発表する企画であるミックスバンドコンテストは、8分間のステージで演奏以外に寸劇を交えたりして発表する軽音連大阪が長年行ってきたイベントですが、その伝統の灯を絶やしてはいけないと、各学校において工夫を凝らした8分間のステージを録画・発表する取り組みを行いました。それから、これも軽音連大阪が長年行っている、オリジナル曲を集めたオムニバスCDの制作もなんとかできました。ただ、例年5月にエントリー、6月に審査、8月にレコーディングを行っているのですが、昨年はそれぞれ8月、9月、10月と、時期が大幅に後ろにずれ、部活を引退している3年生など、参加できなかった生徒が多数出てきてしまったのが残念でした。他には、協力関係にあるビジュアルアーツ専門学校、専門学校ESPエンターテインメント、キャットミュージックカレッジ専門学校、大阪音楽大学、放送芸術学院専門学校などで行っている軽音連大阪主催ライブは、状況を見て、できる限り開催しました。

今年度は現在のところ、例年通りのスケジュールを組んでいます。6月に軽音フェスティバル、7月にオムニバスCDの選考、8月にそのレコーディング、11月に芸文祭の予選会、12月に芸文祭、3月末に近畿春の選抜を予定しています。

それ以外にも、上記の協力関係にある専門学校で行うライブを月に1、2回開催する予定です。なお、ミックスバンドコンテストは例年、夏と春に行っていますが、夏については見送る予定となっており、春については未定です。

## 兵庫県

高等学校軽音楽部連盟兵庫

33校 / 約1,391名

岡崎宏省 / 連盟長

兵庫県立武庫荘総合高等学校

昨年度は部活動禁止で始まり、6月から学年を半分に分けての分散登校、部活動も分散活動で、7月中旬からやっとともに活動再開になりましたが、時間短縮、土日は1日のみの活動と制限がつき、原則県内のみでの活動となりました。しかし、校外活動は各校の校長判断ということで、学校により活動の内容や幅に温度差がありました。本校では練習時もこまめに換気、手の消毒、毎回マイクの消毒、演奏者はマスク、ボーカルはフェイスシールドの着用、飛沫防止スクリーン(H2mW約10m)も購入して対応しました。連盟のライブは秋以降、コロナ対策を提携の専門学校と協議、内容を校長にも確認し、許可を得て無観客で2度行いました。ライブ映像を撮りYouTubeで連盟内に限定公開して、来られなかった部員や保護者にも観てもらえるようにしましたが、交流という意味では成果は乏しかったと思います。

その他の大会の予選や選考はすべて映像審査で行いましたが、選出されても大会そのものが中止になったり、顧問間での貴重な情報交換会(別名宴会)もなく、悶々とした1年でした。本校の3年も12月末の最後の大会が直前に緊急事態宣言で他府県の移動不可になり、その連絡の日で引退という、1度も他校の観客の前で演奏することなく卒業となりました。県内の殆どの3年生部員も同様で、部内の卒業ライブも行われなかったようです。

今年度も連盟の定例ライブの日程は専門学校の年間計画で決まっていますが、他は現状で日程/会場も確定することが難しく、未定です。県からの情報や状況に応じてその都度臨機応変に日程設定を行う予定です。

### 【今年度の大会予定】

5月29・30日 第64回ソニックHSライブ

7月下旬 サマーフェス

8月20日 西播合同ライブ

9月25日 第65回ソニックHSライブ

9月26日 県高校総文文化部合同軽音楽部門  
選考会

11月中旬 県高校総文文化部合同発表会

12月18・19日 第66回ソニックHSライブ  
他 未定

## 和歌山県

和歌山県高等学校文化連盟軽音楽部会  
和歌山県高等学校軽音楽連盟

10校 / 約310名

横出加津彦 / 代表理事

和歌山県立粉河高等学校

昨年、いきなりの3月1日から休校措置となり、卒業式予行が無観客の卒業式と急遽なり、それでも生徒たちは教員へ「別れの歌」を大合唱してくれました。教員の中には、「これも1つの思い出やな」という方もいましたが、本当に寂しく、悔しい卒業式となりました。そして新年度に入っても4月~6月まで休校。再開後もクラスを半分に分けての分散登校、部活動は時間制限となりました。8月は予定されていた軽音楽部恒例の合宿などが取りやめになり、夏休みが長く授業。それでも他校との交流は止められても、学校単位での演奏会は何とか認められました。そして10月は全国大会プレ大会の予定だったのが、県内だけのプレ大会となりました。それでも今年度の全国大会の準備としてはとても良い演奏会となりました。

現在も他校との交流ライブは禁止となっていますが、8月4日(水)の「第45回全国高等学校総合文化祭 紀の国わかやま総文2021」に向け、開催できることを信じ、準備中です。座席の指定、こまめに換気、手の消毒、毎回マイクの消毒など大変ではありますが、役割分担を決めてのぞむ計画です。既に、全国からのエントリーも終え、本県の軽音楽部の生徒たちも準備に向かって努力している最中です。コロナ禍の中の大会だけに、審査をしない大会とはなりますが、全国の仲間たちとの交流をメインに楽しい企画も考えています。ぜひ、和歌山へ来てください。

### 【今年度の大会予定】

和歌山県高等学校軽音楽部会講習会及び全国高等学校軽音楽コンテスト(和歌山県予選会)

日時: 令和3年7月16日(金)

場所: 和歌の浦アートキューブ

第45回 全国高等学校総合文化祭  
 (紀の国わかやま総文 2021 軽音楽部門)  
 日時：令和3年8月4日(水)  
 場所：紀の川市粉河ふるさとセンター

わかやま軽音フェスー 2021  
 (国民文化祭行事の一環として)  
 日時：令和3年10月23日(土)  
 場所：和歌山県民文化会館

**広島県**

**広島県高等学校文化連盟軽音楽専門部**  
**広島県高等学校軽音楽連盟**  
 24校/約700名  
 難波智治/委員長  
 山陽女子学園中等部・高等部

【今年度の大会予定】  
 6月5日 広島県高等学校軽音楽コンテスト  
 8月6日 広島県高等学校対抗バンド合戦  
 P-Summer Live  
 11月6日 広島県高等学校総合文化祭軽音楽部門

**福岡県**

**福岡県高等学校軽音楽連盟**  
 22校/約700名  
 大谷伸弥/委員長・事務局長  
 福岡県立筑前高等学校

昨年は、無観客・配信であっても生徒のために大会を開くことを優先させ、「夏と冬の県大会」、「軽音楽祭@九州」、「けいおん!フェス」を開催しました。今年度は、「夏と冬の県大会」並びに「軽音楽祭@九州」は観客を入れての開催に向けて、準備をしています。

昨年の冬の県大会をきっかけに、加盟校が2校増え、22校になりました。

【今年度の大会予定】  
 第11回 福岡県高等学校軽音楽コンテスト  
 日時：令和3年7月22日(木)  
 場所：ももち文化センター大ホール

高等学校軽音楽祭@九州 R3  
 日時：令和3年8月7日(土)  
 場所：JR九州ホール

第2回 福岡県高等学校軽音楽新人コンテスト  
 日時：令和3年12月予定

**沖縄県**

**沖縄県高等学校文化連盟軽音楽専門部**  
 43校/約430名  
 波平貢司/委員長  
 沖縄県立球陽高等学校

昨年とはとにかくコロナ、コロナ、コロナ…部活動でもその影響は大きく、コロナが流行り始めた3月から3ヶ月は部活禁止となりました。その後「with コロナ」という言葉が浸透し、軽音楽部もパート練習という形で段階的に活動できるようになりました。しかし醍醐味であるアンサンブルが禁止されていた影響もあって、軽音楽部を辞めていく高校生も多かったように思います。そんな中、比較的うまくいった活動例として、大会で披露する課題曲を定め、自粛期間明けに学校代表メンバーを選抜するという方法でモチベーションを保とうとした学校も見られました。もちろん問題ゼロではなかったでしょうが、そのような学校は比較的うまくいったように思います。



大会については、高文連軽音楽専門部として大会運営していく中で、これまたコロナに悩まされました。コロナ対策として、①野外開催 ②無観客&3校ずつのブロック制(会場を柵で仕切り、中には指定の時間に集まった該当ブロックの高校だけが入れられる) ③リモート中継 ④大会前後2週間の検温等を書面にて申告 ⑤バンド毎にマイク等の機材も含めた消毒 といった対策を行いました。大会当日は「大会を開催してくれてありがとうございます」という高校生の声飛び交っていたのをよく覚えています。

今年度どのような活動ができるかまだはつきりわかりませんが、今年度の大会も昨年同様に安全第一で進めていくつもりです。日々の部活動では軽音楽部の頑張りも少しずつ認められるようになり、窓を開けてのアンサンブルを許可する学校も増えてきています。もしかしたら「サイレントスタジオ」のような機材セットを使用する学校も出てくるかもしれません。いかなる場合でも、好きな音楽だからこそ、いろいろ制限を受けつつも、へこたれず工夫しながら活動していくと思います。青春の思い出に軽音楽部を選んだそんな高校生達を、我々も応援していこうと思っています!

【今年度の大会予定】  
 第45回 沖縄県高等学校総合文化祭軽音楽部門  
 第4回 ガクアル FESTA 高文連軽音楽コンテスト  
 10/30(土) 個別バンドの部  
 10/31(日) 団体バンドの部  
 会場：ミュージックタウン音市場(沖縄市)



デジレコ編集部があなたの高校に参上!

# DIGIRECO BAND CLINIC

第99回 愛知県立瀬戸窯業高等学校 PSLMC

〒489-0883 愛知県瀬戸市東権現町22-1



▲2021年度から瀬戸工科高校に学校名が変更となりました

### 3種類の「練習」カテゴリー

- 自分のスキルアップのための練習  
= 技術、知識、感性の向上
- バンドで音をまとめていくための練習  
= アンサンブルの向上
- 人に披露するための練習  
= ライブ、レコーディングの準備

▲普段のバンド練習を目的別に仕分けることの大切さを紹介

第99回目のデジレコ・バンド・クリニックの実施校は愛知県瀬戸市にある愛知県立瀬戸窯業高等学校です。1895年(明治28年)に瀬戸陶器学校として開校した非常に歴史のある学校で、瀬戸市内にある公立高校の中で最も古い歴史を誇ります。PSLMCの活動も盛んで、公式大会への出場と入賞をはじめ、他校との交流や地元のお祭りへの出演など、多岐に渡っています。

定刻となり、開会式からスタートです。当協会の理事長がクリニックの趣旨や1日の流れを紹介し、顧問の佐藤先生やPSLMCの部長さんからも歓迎の挨拶をいただきました。最初の講義は「部活動としての軽音楽部の在り方」に関する座学です。「野球部やサッカー部、吹奏楽部や合唱部などと同じく、軽音楽部は学校に認められている部活動の1つです。視聴覚室や教室が自由に使えたり、公式な大会に出場できたり、先輩や同級生、顧問の先生などから客観的なアドバイスをもらえたり…と、部活動であるからこそ、得られるものがたくさんあります」既存の曲をコピーし、演奏することも軽音楽部の楽しみの1つですが、荒削りであっても自分たちで考えたメロディーと、高校生ならではの歌詞によるオリジナル曲の素晴らしさは言うまでもありません。ステージでの演奏を通して、たくさんの人たちに感動を与えられるエンターテインメント性の高い活

動ができるのも、軽音楽部の素晴らしいところの1つではないでしょうか」と紹介し、校外でのバンド活動と部活動である軽音楽部の違いもスライドを用いながら説明しました。

さらに「複数の人たちが集まって演奏したり、楽曲を作る場合はコミュニケーションが大切です。演奏する曲が決まれば、パートごとに練習を重ね、演奏する際はチームワークを発揮しないと合奏になりません。オリジナル曲を創作したり、既存の曲をアレンジする場合もクリエイティビティーを発揮することになります」と述べ、これらの要素を音楽やバンド活動を通して習得できるのが、軽音楽部の最大の特長であることを紹介しました。

休憩を挟んで、「初歩の電気&音響の知識」と「DAWを使った音作りのヒント」の座学へと移行。マイクからミキサーを通り、パワー・アンプを経由して、スピーカーから音が出力される仕組みやダイナミック・マイクの構造、マイクの指向性についてなどを紹介したほか、音作りのヒントに関する講義では、DAWソフトを用いながらボーカルにコーラスをかけてみたり、周波数の帯域を操作しながら音の「被り」や音の「抜け」が良くなるコツを解説しました。

次は副理事長による「アンサンブルが良くなるための練習方法」に関する座学です。当日は「ビデオ講義」という形で実施し、何気なく取り組

んでいる「普段の練習」を目的別に仕分けることの大切さを解説。「個人のスキルアップのためなのか」「バンド全体で合わせるためなのか」「ライブの本番を想定したものなのか」という風に練習の内容を見直し、目的や要点を明らかにすることで、限られた時間の中で取り組む練習の質が向上し、効率よくスキルアップが狙える旨を紹介しました。

クリニックの後半はバンドごとのアンサンブルの実習です。1バンド/20分という持ち時間で演奏を披露。演奏後は「何度も練習を重ねてきたのがわかる、素晴らしい演奏でした。皆でやるぞ!という気持ちが伝わってきました。もっと良くするには歌詞の内容を噛み砕いて、全員でイメージを共有したり、演奏にダイナミクスをつけられると、もっと自分たちのものにできるので、ぜひ挑戦してみてください」「緊張してしまっていたのだと思いますが、『ライブ』という観点で見た場合、少し動きがなかったかな…という印象を受けました。ボーカルは前をしっかりと向いて、手や体を使いながら楽曲の世界観を表現してみたり、コーラスをするメンバーも歌わない時はステージを前後に動いてみるなど、今回はパフォーマンス面でも観客を魅了してください。楽曲や歌詞を『動き』でも伝えられると、もっと良くなると思います」といった講評やアドバイスを送りました。



デジレコ編集部があなたの高校に参上!

# DIGIRECO BAND CLINIC

第100回 名古屋経済大学市邨高等学校 軽音楽部

〒464-8533 愛知県名古屋千種区北千種3-1-37



## 部活動としての「軽音楽部 2.0」

- ・軽音楽部のバンドは部単位で活動することが基本→団体行動
- ・軽音楽部の目指すものは演奏技術の向上だけではなくプロ志向ではない
- ・ライブや大会など主催ではなく、自主の活動を大切にする
- ・高校時代に部活動に一生懸命打ち込んだことは人生の糧になる
- ・先輩、後輩、部員同士（友達や保護者を含む）でお互いに譲歩し合う
- ・顧問の監督の下で、生徒主導の活動を展開する→アクティブ・ラーニング
- ・顧問は部活動のプロデューサー、技術指導は上級生の役割
- ・顧問が変わっても、変わらない部活動に（部別、伝統を創る）
- ・音楽や楽器の知識、電気や音響の原理の知識の習得→数学、物理、英語にも通じる
- ・複数の楽器が演奏できるように（下手でも構わない）→人の気持ちもわかる
- ・オリジナル曲の制作に取り組み（下手でも構わない）→世界に1つだけの宝物
- ・楽曲だけでなく、音楽と映像の作品を作ることもチャレンジを
- ・自分たちで合同演奏会を企画/運営する→イベントの制作と運営
- ・地域貢献（公民館などで演奏会）

▲部活動としての軽音楽部のあり方を事例を交えて紹介

## アンサンブル = 合奏

良い合奏を目指すのが「バンド練習」の目的  
 良い合奏ができるバンドが「良いバンド」  
 個人の技術スキルと合奏のスキルは違う  
 バンド練習中に個人練習をしない  
 計画性と責任感を持って行う

▲良い合奏ができるのが、良いバンドであることを解説

記念すべき、第100回目のデジレコ・バンド・クリニックの実施校は愛知県名古屋市にある名古屋経済大学市邨高等学校です。1907年（明治40年）に開校された歴史のある学校で、高校は「特進」「文理」「キャリアデザイン」の3コース制が導入されています。運動部・文化部を問わずに部活動も盛んで、軽音楽部も1年次からオリジナル曲の制作に励み、愛知県大会や中部大会での入賞をはじめ、全国大会への出場経験もあるなど、活発に行われています。

定刻となり、クリニックのスタートです。はじめに、当協会の理事長が開催趣旨や1日の流れを説明し、軽音楽部からも代表の生徒と顧問の中村先生に挨拶をいただきました。最初は「部活動としての軽音楽部を考える」というテーマの座学です。「軽音楽部の評判」と「軽音楽部の定義」、「部活動としての軽音楽部のあり方」という3つの観点から自校の軽音楽部のことを振り返り、部活動は学校教育の一環であり、普段の授業では学べないことを補完する「課外授業」であることを紹介しました。具体的には「音楽やバンド活動を通して、コミュニケーションとチームワーク、クリエイティビティーを磨くことができる」と説明。「バンド活動や楽器の演奏を通して、社会が求める人材育成を行えるのが、軽音楽部の素晴らしいところの1つです」と述

べたほか、「部活動の1つなので、軽音楽部だけは特別であり、何をしたら良いということはありません。行動規範は他の部活動と同じでなければならず、挨拶や身だしなみ、時間厳守といった学校生活の決まりを守るのももちろん、常に周りの人たちから見られているということを意識して、行動してください」と話しました。

小休憩を挟んで、「初歩の電気&音響の知識」「エレキ・ギターの音作りの基本」の座学に移行。マイクからミキサーを通り、パワー・アンプを経由して、スピーカーから音が出される仕組みを図解で紹介したほか、ギター・アンプのつまみ（BASS/MIDDLE/HIGH）の役割をはじめ、オーバードライブやディストーション、コーラス、ディレイといったエフェクトの種類と効果を1つずつ解説。実際に音を聴きながら、かかり具合を体験しました。また、音が被ってしまう理由や音の抜けを良くするためのコツも紹介し、楽器にはそれぞれの帯域があり、バランスよく役割分担をすることで、スッキリとしたサウンドになることを学びました。

次は副理事長による「アンサンブルが良くなるための練習方法」に関する座学です。当日は「ビデオ講義」という形で実施し、普段の練習を目的別に仕分けることの大切さを解説。「アンサンブル=合奏」であるという原点に立ち、良い合奏を目指すのがバンド練習の目的であり、個人の技術

的なスキルとバンド全体の合奏のスキルは似て異なるもので、良い合奏をできるバンドが「良いバンド」であることを説明。それらを計画性と責任感を持って臨むことが重要である、と述べました。

昼食休憩の後はバンドごとのアンサンブルの実習です。1バンド/20分という持ち時間で演奏を披露。演奏後はイントロやAメロ、サビだけ…とブロックごとに再演奏し、細かいポイントを確認したほか、「まだまだ自分の楽器を演奏するのに精いっぱい…という演奏でした。目線が手元に落ち、バンド内で完結してしまっている感じがします。まずはしっかりと前を向き、目線は少し先の方を見るようにしましょう」「全体的にうまくコピーができており、良い演奏でした。もっと良くするには、例えば、スネアのオープン・リムショットの精度を上げたり、ルートを弾くベースは最後の音までキッチリと弾いてから移行しましょう。すると、演奏にムラがなくなり、タイトなサウンドになります」といった具体的なアドバイスを各バンドに伝えました。

滞りなく、すべての講義が終了。閉会式では「軽音楽部はプロ・ミュージシャンの登竜門でもなければ、養成する場所でもありません。1つのことに一生懸命に打ち込んだ経験は必ず人生の糧になり、切磋琢磨した仲間は一生の宝物です。ぜひ皆さんの手で市邨高校の伝統を紡いで、次の世代に伝えていってください」と話し、閉会しました。



デジレコ編集部があなたの高校に参上!

# DIGIRECO BAND CLINIC

第101回

豊橋中央高等学校 軽音楽部  
愛知県立豊橋工業高等学校 音楽部

〒440-0856 愛知県豊橋市鍵田町106番地

〒441-8141 愛知県豊橋市草間町官有地



▲映像を視聴し、大会出場が成長につながることを紹介



▲アンサンブルの向上に関する講義はビデオ形式で実施

第101回目のデジレコ・バンド・クリニックの実施校は愛知県豊橋市にある豊橋中央高等学校と愛知県立豊橋工業高等学校です。年に数回、学校間交流会を行う両校では校内ライブや文化祭での発表をはじめ、地域のイベントへの参加など、活発な活動が行われています。当日は豊橋中央高等学校を会場にして、2校合同のクリニックを開催しました。

当協会の理事長がクリニックの趣旨や1日の流れを説明し、両校の軽音楽部からも歓迎のメッセージをいただくと、早速、座学からスタート。プロジェクターを使用しながら「部活動としての軽音楽部を考える」というテーマで講義を行いました。授業は「軽音楽部の評判」「軽音楽部の定義」「部活動としての軽音楽部のあり方」という3つの話題に分けて講義が進み、「部活動は学校教育の一環であり、普通の授業では学べないようなことを補完する『課外授業』であること」「サッカー部や野球部などの運動部をはじめ、吹奏楽部や合唱部などの文化部と同じように、活動を通してコミュニケーションとチームワークを育むことができるほか、特に軽音楽部ではオリジナル曲やコピー曲を演奏することで、クリエイティブ力が養われる」といった部活動の基本や軽音楽部の特色を事例を挙げながら解説。「バンド活動や楽器の演奏を通して、社会が求め

る人材育成を行えるのが、軽音楽部の素晴らしいところの1つです」と紹介しました。

休憩時間を挟んで、次は副理事長による「アンサンブルが良くなるための練習方法」の講義へと移行。今回は「ビデオ講義」で実施しました。いつも何気なく取り組んでいる練習を「個人練習」「バンド練習」「ライブ練習」という3つに仕分けることで練習の目的が明確になり、効率的に上達できることを解説。また、練習前に合わせておきたいこととして、「練習内容」「楽曲の構成」「キー、コード、テンポ」「チューニング」を挙げ、これらをスタジオの利用時間中に行ってしまうと時間の無駄につながり、バンド練習の本来の目的から外れてしまうこと、あくまでもバンド練習では「リズムやグルーブ」「ユニゾンやキメ、シンコペーション」「ダイナミクスや音量」など、バンドでないと確認できないことに注力すべき、と提案しました。

昼食休憩の後は、両校の代表バンドによるアンサンブルのレッスンを行いました。1バンド/20分という持ち時間で、7バンドが演奏を披露。米津玄師や森七菜、Hump Backやback numberなどのコピー曲を演奏しました。演奏後の講評では「トップバッターで緊張したと思いますが、堂々とした演奏でした。正しい方向で上達しているので、このまま発表の数をこなしていけば、より良い演奏になります」「いくつ

かアドバイスをする、全体的にキーが高いと思います。原曲のままだと、ボーカルさんが歌うサビが裏声になってしまうので、カラオケのキー・チェンジをする感覚で、楽曲のキーを変える(移調する)と歌いやすくなります」「少し高度な話になりますが、上手に演奏しているものの、演奏時に体がフラついてしまっています。全員でリズムを取るようにし、特にドラムのスネアを叩くところ…2拍目と4拍目でノれるようにすると、さらにグルーブ感が出て、アンサンブルにまとまりが出るので、意識してみましょう」という講評が伝えられました。

また、別のバンドには「基本的な音作りは、よくできています。ただ、もう少し研究すれば、さらに良くなると思います。それは『音域を意識した音作りをする』ということです。言い換えると、低い音域と高い音域が被らないように音作りをするということ。例えば、2本のギターがまったく同じ音を出すと音が痩せてしまい、聴こえにくくなってしまいます。そこで『私はシャリ〜!としたギターを心がけるね』とか『私は丸みのある温かいサウンドを担当するね』という風にバンド内でディスカッションをしましょう。すると、一人ひとりの音がよく聴こえて、かき消されることなく、ぜひ楽器の持つサウンドを意識してみてください」というアドバイスを伝え、参加した部員は今後の参考にしました。



▲アンサンブルが良くなるノウハウを目的別に解説しました



▲クリニックの後半は講師や部員が見守る中、演奏を披露

第102回目のデジレコ・バンド・クリニックの実施校は東京都渋谷区にある実践女子学園高等学校です。渋谷駅から徒歩10分のところに位置する同校は1899年(明治32年)に設立、非常に歴史のある中高一貫校です。中学、高校と部活動が盛んで、軽音楽部もコピー曲やオリジナル曲の演奏に励み、公式大会への出場や他校との合同ライブへの参加など、活発な活動が行われています。

まずは開会式からスタートです。当協会の理事長がクリニックの趣旨やタイムテーブルを説明した後、軽音楽部の部長と顧問の小越先生から歓迎の挨拶をいただくと、座学へと移行。プロジェクターを使用しながら「部活動としての軽音楽部を考える」というテーマで講義を行いました。講義では「部活動は学校に認められた、課外授業の一環としての取り組みです。軽音楽部は野球部やサッカー部、吹奏楽部や美術部などと同じく、学校の部活動の1つです。たくさんの音楽に触れることができたり、オリジナル曲にチャレンジすることで、かけがえのない宝物を得ることができるなど、素晴らしいところがあるほか、教室や視聴覚室が使えたり、公式大会に出場できたり、他校の軽音楽部と演奏を通じて交流できたり、先輩や同級生、顧問の先生から客観的なアドバイスがもらえたり…と、部活動を通して得

られるものがたくさんあります」と紹介。「運動部や他の文化部と同じように、コミュニケーションとチームワークを育むことができるほか、特に軽音楽部はオリジナル曲やコピー曲を演奏することで、クリエイティブ力を養うことができます」と、部活動の基本や軽音楽部の特色を1つずつ解説しました。

途中休憩を挟み、第2部の「初歩の電気と音響の知識」「エレキ・ギターの音作りの基本」「初級エフェクター講座」の座学では、マイクロフォンから入力された電気信号がミキサーを通り、パワー・アンプを経由して、スピーカーから出力される仕組みやマイクやダイアフラムの構造、マイクの指向性やハウリングが起こる要因などを解説。エレキ・ギターは弦の振動をコイルがキャッチし、それが信号となり、シールド・ケーブルを伝って、アンプに送られることも紹介しました。さらに、マルチ・エフェクターを用いて、オーバードライブやディストーションなどの歪み系からコーラスやディレイなどの空間系、フランジャーやワウなどの揺れモノまで、様々なタイプのエフェクトを解説。周波数の帯域を理解することで、バンドのアンサンブルが聴こえやすくなったり、聴こえにくくなることがあり、「いかに楽器同士の帯域が被らないようにするか?」が重要であることを伝えました。

第3部は副理事長による「アンサンブルが良

くなるための練習方法」の講義です。普段の練習を「個人のスキルアップのためなのか」「バンド全体で合わせるためなのか」「ライブの本番を想定したものなのか」という風に見直し、練習の要点を明らかにすることで、限られた時間の中で取り組む練習の目的が明確になり、効率よくスキルアップが狙えることを紹介。また、バンド練習では「リズムやグルーブ」「ユニゾンやキメ、シンコーション」「ダイナミクスや音量」などに注意し、「バンドでないと確認できないことに注力すべき」と提案。参加した生徒は真剣な眼差しでメモを取り、講義に耳を傾けていました。

後半は各バンドによるアンサンブルのレッスンです。邦楽ロックを中心に演奏し、理事長や副理事長が講評や今後につながるアドバイスを伝えました。具体的には「どの楽器も音量が大きすぎてしまい、最初から最後まで『全力投球!』という感じでした。もう少し音量の差によるメリハリが付けられると、さらに良い演奏になります」「ボーカルはゆったりと流れるように歌う歌唱法ですが、それをそのままベースやドラムもやってしまうと、一気に演奏が締まらなくなってしまいます。この楽曲ではドラムのハイハットが『チャカチャカ…』という風に16ビートを刻んでいるため、タイトさが出ています。ぜひリズム感を大切にしながら、楽曲の世界観を演出してください」と伝えました。

デジレコ編集部があなたの高校に参上!

# DiGiRECO BAND CLINIC

デジレコ・バンド・クリニックはデジレコ・ジュニアや顧問通信の取材として、高等学校の軽音楽部をよく知る講師がアンサンブルのアドバイスをしたり、音響や電気の初歩的な知識やサウンドチェックの仕方、全体練習の紹介、軽音楽部員としての心得など、実施校の要望に応じて講座のメニューを組み合わせる自由度の高いクリニックです。

効率的な練習の方法から、楽器／機材の基礎知識、バンド演奏のアドバイスまで…。軽音楽部にまつわることなら、なんなりとご相談ください。軽音楽部のコンシェルジュとして皆さんのお役に立てると思います。ご相談は顧問の先生を通して行ってください。



全国高等学校軽音楽連盟主催 全国高等学校文化連盟後援

## 第7回 全国高等学校軽音楽コンテスト

令和元年8月21日(水) 明星学苑児玉九十記念講堂

開催予定  
令和3年  
8月20日(金)

# 全国大会への道

連盟のない県の部員も音源審査枠で出場ができます！

全国高等学校軽音楽連盟主催

## 第8回 全国高等学校軽音楽コンテスト

日時：令和3年8月20日（金）／会場：さいたま市民会館おおみや

全国高等学校軽音楽連盟が主催する全国大会（全国高等学校軽音楽コンテスト）は、毎年8月のお盆明けに開催されています。各都道府県の軽音楽連盟に出場枠が割り振られ、各連盟が推薦するバンドがこの大会に出場します。昨年度はコロナの影響で中止となりましたが、今年度は全国20の都道府県から代表バンドが出場して行われる予定です。また、連盟のない県の生徒たちのために「音源審査枠」が設けられています。「うちの県には連盟がないんだけど、私も挑戦したい！」という人は、ぜひこの音源審査枠でエントリーしてください。（注：連盟のある都道府県の生徒は、音源審査枠でのエントリーはできません）

大会の概要は全国高等学校軽音楽連盟公式ホームページをご覧ください。  
また、今年度の第8回大会の詳細は6月初旬に同ホームページで発表されます。<http://www.zenkoku-keion.com/>



音源審査でのエントリーは、バンド演奏を一発録りした映像を YouTube にアップする形式を取ります。審査員は音のみで審査しますので（映像は見ない）、見た目は気にせず、音に集中して演奏すると良いでしょう。なお、高音質／高解像度の映像撮影のコツはデジレコ・ジュニアで紹介していますので、参考にしてください。

出場枠のある都道府県

東京・神奈川・千葉・埼玉・長野・大阪・北海道・宮城・茨城・静岡  
滋賀・京都・兵庫・奈良・和歌山・広島・岡山・高知・福岡・沖縄

iPhone でできる  
高音質／高解像度の映像撮影



[keionkyo.org/digireco-jr/200521/](http://keionkyo.org/digireco-jr/200521/)



# iPhoneでできる 高音質／高解像度の映像撮影



演奏上達の秘訣は、自分たちの演奏を客観的に見て知ることです。そのためにはビデオで撮ってみるのが一番でしょう。また昨今では都道府県大会などの予選審査として、演奏動画が求められるケースも増えてきています。そこで今回は、iPhoneを使い、できるだけ簡単に、かつ良い音で演奏動画を撮影する方法を紹介します。

協力：加藤学園高等学校 フォークソング部

## 演奏は映像に残そう

日常のちょっとした風景や面白い現象を記録するために、iPhoneのカメラ機能を使っている人は多いでしょう。軽音楽部の活動では、ライブの風景を動画として残しているケースも多いと思いますが、普段のバンド練習風景などを「撮影」している学校は、まだ少ないのではないのでしょうか。

冒頭でも紹介した通り、楽器の演奏技術を磨く上で自分の演奏を客観的に聴くことはとても大切です。というのも、演奏中は自分が演奏するのに夢中だったり、大きな音を鳴らすこと自体に気持ち良くなってしまい、自分がどんな演奏をしているのか、そしてバンド全体がどのようなアンサンブルを奏でているのかを冷静に見るのは、意外と難しいもの。つつい「弾けているつもり」になってしまいがちです。

それを防ぐ一番簡単な方法は、演奏風景を動画として撮って見ることです。音声だけでも良いのですが、きれいな画質で撮影ができるiPhoneで映像で撮ってみましょう。音だけではなく、弾いているフォームや姿勢も確認できるので、プレイ

中の自分が観客からどんなふうに見えるのかが客観的に見ることが出来ます。また、日常的に撮影を繰り返していくことで、成長の記録を残すことができます。「先月よりもうまくなった！」ということが自分で実感できれば、練習のやりがいにもつながります。

## 都道府県大会に挑戦しよう

最近では、都道府県大会で音源や演奏動画審査が行われることも増えてきているので、普段から動画を撮ることに慣れておくことで余裕を持って取り組むことができます。

この時に大切なのは、動画のクオリティーよりも演奏や大会に向き合う姿勢です。レコーディングや動画撮影というと、高価な機材や専門知識がないと良いものは作れない…そんなイメージを持ってしまいがちですが、決してそんなことはありません。予算がなくても、手の届く機材とちょっとしたアイデアや工夫で十分良い作品を作ることができるはずですよ。

何よりも、そういった本気の姿勢で取り組めば、普段の練習や演奏も変わり、それは必ず結

果にも結びつくでしょう。

## 課題はマイクにある

iPhoneで動画を撮ることは、誰でもすぐできると思いますが、いざ演奏を撮ってみると「あれっ？」と気付くはず。iPhoneのカメラは高性能で、映像はとてもきれいに撮れるのですが、問題は「音声」です。iPhoneで録った音声は音が割れ、多くの場合ドラムが大きくてボーカルが聴こえない…という状態になっています。これは市販のビデオ・カメラを使う場合でも同じです。音楽の主演はあくまで「音」なので、その音の本来の魅力を伝えられないのはもったいないですね。こんな状態では、演奏の細かい部分までチェックするのは難しくなってしまいます。何より少しでも良い状態で聴きたいですよね。

音割れなどの原因は、マイクの性能に対してバンド演奏の音が大きすぎることです。そもそもiPhoneやビデオ・カメラのマイクは爆音のバンド演奏を録音することを想定していないため、これは仕方ないことなのです。逆に言えば、マイクの問題さえ解決すれば、iPhoneでも音割



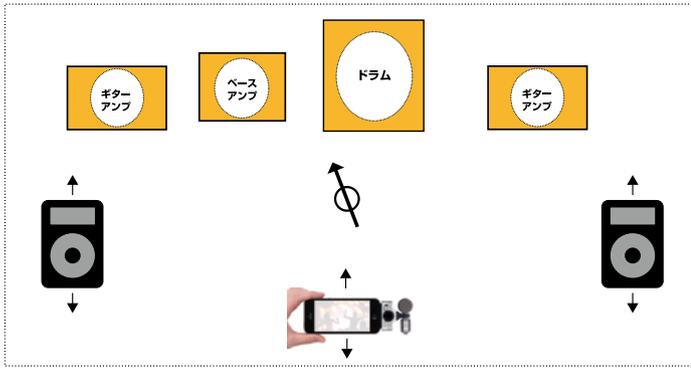
▲iOSデバイス用のマイク iQ7。Lightning コネクターを搭載したiPhoneやiPad Touch、iPadで使用できます



▲iPhoneを固定するためのスマートフォン・ホルダー(左)とマイク・スタンドに取り付けるための変換ネジ(右)



▲この3点のセットは軽音協ショップで販売中ですので、ぜひチェックしてください [www.keionkyo.shop](http://www.keionkyo.shop)



◀楽器ごとの音量調整ができれば、PAスピーカーやマイク (iPhone) の位置を前後に動かして、ボーカルがしっかりと聞こえる位置を探っていきましょう

れない演奏動画を撮影できるということです。ここでは、ZOOMのiOSデバイス用マイク「iQ7」を使っていきます。iOS用のマイクはいろいろ販売されていますが、音楽を撮る場合は楽器メーカーの製品を選ぶのが安心です。

### マイク・スタンドに設置する

これで音割れの問題は解決できましたが、ただ撮っただけでは各パートのバランスは悪いまま。ドラムばかり大きく聴こえてボーカルは聴こえない…なんて具合になっていることでしょう。次にこれを改善していきます。

まずは位置を調整したり、セッティングしやすくするために、スタンドに固定しましょう。スマートフォン用のスタンドも販売されていますが、意外と高価です。そこで考えたのが「スマートフォン・ホルダー」と「変換ネジ」を組み合わせて使うことで、iPhoneをマイク・スタンドに設置する方法です。

部屋にカメラ用の三脚がある場合は、変換ネジは不要ですが、マイク・スタンドの方が高さや位置の微調節もしやすく、何より部屋に必ず設置されていると思いますので、こちらを使うのが良いでしょう。

### すべてはバランスだ！

iQ7の場合、1台 (2本) のマイクで録音しているので、録音後に各楽器の音量バランスを個別に調整することはできません。そのため、収録時に音楽的にバランスの良い音量レベルで演奏することが必要になります。ここで言う「バランスが良い」とは、ライブPAのようにその場でどう聴こえているかよりも「実際に録音される音がどうか」を意識する必要があります。

これに関しては明確な正解があるわけではないので、演奏し、録音結果を確認し、それを反映してまた録音…という試行錯誤を繰り返さなくてはなりません。いくつかコツを紹介します。

ボーカルがドラムやアンプの音に埋もれてしまい、聴こえにくいというケースが多いと思いますが、これはボーカルが小さい、またはその他の楽器が大きすぎるのが原因です。

ボーカルの音量を基準に、他の楽器の音量を調整していきます。まずはPAでボーカルを適切なレベルで鳴らし、そこに合わせてドラムを追加。最後にギターやベースの音量を合わせていくようにすると良いでしょう。どうしてもボーカルが小さくなってしまふ場合は、レコーダーとPAスピーカーの位置を近づけると、それだけPA (ボーカル) の音量が大きくなります。ドラムは音量調節が難しいと思うので、もし音量が大きすぎると感じたら、いつもより力を抜き気味に叩くような工夫が必要かもしれません。場合によっては、メンバーよりもPAスピーカーを前に出すのも有効ですが、距離が離れすぎると、自分たちの音が聴こえにくくなったり、部屋の特性によって音の輪郭がぼやけていくので、これらを総合的に判断しながら位置を探っていきましょう。

レコーダーの位置が離れた場合は、メンバーがイイ感じに画面に収まるようにカメラをズームさせればOK。メンバーの立ち位置は自由で、カメラに全員が写っていれば大丈夫。ただし、ボーカルはステレオの中央から聴こえて欲しいので、スピーカーの位置に対して、常にレコーダーが中央になるようにセッティングすると聴きやすいサウンドに仕上がります。

1本のマイクで録る場合は、各楽器の音量はもちろん、位置や距離を工夫するのが大切です。最初は時間が掛かるとは思いますが、何度かテストすればコツが掴めるはずですよ。

また、せっかくステレオで録音できるので、楽器の配置にも工夫してみましょう。ボーカルやドラムは中央に、ギターやキーボードは左右に配置することで、広がりのあるサウンドになり、1つ1つの楽器の音も聴きやすくなるはずですよ。

### 作品であるという意識

いろいろな制限がある中でクオリティーの高い動画を作ることは大変かもしれません。しかし、「作品として少しでも良いものを作りたい！」と意識したり工夫することで、バンドのレベルアップや演奏に対する取り組み方にも変化が起ころうでしょう。高価な機材にこだわることなく、「作品を創る」「創意工夫する」というところが、軽音楽部の「部活動」としての意義ではないでしょうか。

最後になりましたが、せっかく良い音で撮っても聴く環境によっては良さを発揮することができません。ビデオを見返すときには、iPhoneの内蔵スピーカーではなく、イヤフォンを使ってしっかりと細部まで聴くことを忘れないでください！



▲目的に合った機材の選定とアイデアを組み合わせることで、十分にクオリティーの高い演奏動画を撮影することができます

録音  
する

作曲  
する

アレンジ  
する

MV  
を制作する

配信  
する

初めての

THE FIRST STEP FOR DESK TOP MUSIC

# デスクトップ・ミュージック

パソコンを使った音楽制作という話を耳にしたことはありませんか。みなさんが普段耳にするポピュラー・ミュージックはもちろんのこと、どんなに激しいロックバンドでも、最近はパソコンを使わずに音楽制作することはありません。デスクトップ・ミュージックはDTMと訳され、机の上、または膝の上で、音楽制作ができるシステムの総称です。スマホやタブレットでも始めることもできますので、軽音楽部員のみならずもこの機会に始めてみませんか？（文：三谷佳之）

パソコンと聞くと難しいと感じるかも知れませんが、スマホはもはや電話機ではなく、小型高性能パソコンですから難しく考える必要はありません。新しいおもちゃだと考えて、「習うより慣れる」の精神でとにかくやってみること、始めてみるのが大事です。パソコンを使った音楽制作の利点はたくさんありますが、軽音楽部員にとっては大きく5つが挙げられます。

1つは自分たちの演奏を録音することで客観的な評価ができること。2つめはオリジナル曲を作曲する作業が楽になること。3つめは作成したオリジナル曲のアレンジが容易になること。4つめはMV（ミュージックビデオ）の制作までできること。これはライブ・ステージのパフォーマンスにも繋がったり、楽曲の音楽性をメンバーで確認することにもなります。5つめは音楽や映像の配信が容易にできることです。昔と違い、制作したり、演奏した楽曲はライブで目の前の観客に対して披露するだけでなく、いろんな形式で発表することができるようになりました。もちろん、スマホだけでできるものもあれば、大掛かりなシステムを組まないと完成度の高いものがないこともありますが、まずは小さく始めてみることです。以下、軽音楽部員に特に有効と思われる3つの利点を紹介します。

録音  
する

バンドのメンバーと演奏している最中に自分の演奏を客観的に観察する…つまり、観客の視点で見る／聞くことはできません。そこで威力を発揮するのがデスクトップ・ミュージックを使ったレコーディング（録音）や映像の録画です。自分の演奏を後で聞き直すことはプロのミュージシャンなら当たり前に行っていることです。メンバー全員の演奏をそれぞれのマイクロフォンで集音して、録音することをパラレル・レコーディングと言います。個人の演奏パートだけを聞いたり、サウンドを編集したり、演奏しなおすことができるのが特徴ですが、さすがにそのレベルの録音をするとなるとスマホやタブレットでは難しいので、本格的なレコーディングはパソコンを使ったDTMのシステムが組めるようになってからでよいと思います。しかし、スマホやタブレットの録音機能を使ったレコーディングは普段から行うようにしましょう。自分の演奏を客観的に聞くようにするだけで個人の演奏スキルやバンドのアンサンブルは格段に向上します。その際、本体だけで録音すると音が割れる…歪んで聞こえにくくなる場合があります。特にドラムやエレキギターの音は日常生活の音量と比較するととても大きいので、そのまま録音すると歪んでしまうことがあります。スマホやタブレットの置く場所を工夫したり、外付けの小型マイクを使用することで歪みを減少させることができます。詳しくは本誌の過去の記事「iPhoneでできる高音質／高解像度の映像撮影」で詳しく紹介していますので参考にしてください。

作曲  
する

昔の作曲家はグランドピアノを弾きながら一心不乱に譜面に音符を書き込んでいくという勝手なイメージがありますが、現在はパソコンに直接入力していき、その時々で演奏を再生したり、編集したり、また演奏したり…を繰り返します。多くの作曲の場合、イントロ、Aメロ、Bメロ、サビと楽曲の順番通りにメロディーを思いつようなことは稀です。メロディーやアイデアのヒントなどが断片的に浮かんでは消えるというのがほとんどのケースですので、それらをメモしておくツールとしてDTMは優れています。ショッピングの途中でふと浮かんだフレーズをスマホに録音しておくなんてことは日常茶飯なことです。いざ、作曲をするぞ！となった場合、あのメロディー、このコード進行、あのサウンド…など、あらかじめ保存してあるネタをDTMの中で探し、読み込んで、それらを組み合わせることで楽曲に仕上げていきます。DTMでは楽曲作成を支援し

iPhoneでできる  
高音質／高解像度の映像撮影



てくれるソフトウェアもあります。コード進行を選んで、メロディーを自動的に生成するなんてことも夢の世界ではありません。

ま、そこは置いておいて、軽音楽部での活用方法では、メンバーの誰か、作曲したいと思った人がスマホやタブレットを使ってオリジナル曲のコード進行やメロディーなどの大枠やぼんやりしたイメージで各パートの演奏を仮で作成して、それをバンドのメンバーと共有、それぞれのパートごとにかっこいい演奏を考えてもらい、次のリハーサルの際に全員で演奏し、それを録音して、確認して、客観的に方向性を決めていくというサイクルが考えられます。DTMを使うことで全員が揃わないと作曲ができないとか、各パートの細かい詰めができないということがなくなります。初めて使う無料アプリとしては「GarageBand (iPhone/iPad)」がおすすめです。使い方を紹介した動画もたくさん存在しますので、検索してみてください。Androidの場合は、同じようなアプリに「WalkBand」「MusicMakerJAM」「PaintMusic」などがあります。



音楽だけでなく、多くの創作活動には数学のような正解はなく、またスポーツのような点数もありません。いろいろと試行錯誤を繰り返し、



作者がその時点で最高と思うものを発表することになります。音楽制作の際、その試行錯誤に適したものがDTMです。オリジナル曲を作る際に、各パートの演奏を仮で入れておき、最終的には各メンバーにかっこいい演奏をしてもらうことを先に述べましたが、メンバーに送る前にもしくは送った後でも、自分で何通りものパターンを考えることができます。DTMの場合、各パートはトラックという独立した演奏データとして扱われ、演奏の再生中でも切り替えることができるので、メロディーであれ、伴奏パートやリズムであっても、聴きながらどちらがかっこいいか、じっくり来るかを聞き比べることができます。それも、自分はまったく演奏せず、客観的な立場で聞き比べることができるのですから、どれほど便利かは想像に難くないと思います。

さらに言えば、各パートの演奏の入ったトラックは任意の位置から好きな位置に移動させることもできるので、イントロ、Aメロ、Bメロ、サビという演奏順ですら変更することができます。つまり、いきなりサビから入って、Bメロ、Aメロ…という順に並び替えることが簡単できるのですから、どこまでも楽曲を磨くことができます。

以上、駆け足ですが、軽音楽部員にとって、DTMが優れたツールであることを述べてきました。スマホやタブレットで始めることができるツールですので、まずは始めてください。ググったり、YouTubeで検索すると優しく、または詳しく解説しているサイトや動画がたくさん見つかると思います。



GarageBand  
(iPhone/iPad)

# 職業としての 音楽／エンタメ業界2021

軽音楽部に入部した人の中には、将来、音楽やエンターテインメントの業界に進みたいと思っている人は少なくないはず。一度きりの自分の人生ですから、できれば好きな仕事、一生続けられる仕事に就きたいものですね。将来のキャリア・プランを考えられる軽音楽部は素晴らしい部活動だと思います。音楽やエンターテインメントの業界にはどんな職業があるのか。まず最初に「音楽業界」に関わる仕事のジャンルを紹介していきましょう。(文：理事長 三谷佳之)

音楽やエンターテインメントの世界は表面に見えている部分や先入観として、派手なパフォーマンスが目立ったり、浮き沈みが激しいと思われがちで、残念なことになった職業や安定した仕事に見られないことが少なくありません。そのほとんどは、その世界をよく知らないことが原因だと思います。どの業界でも同じことが言えると思いますが、表に見えてこない部分にはいろいろな幅広い仕事や

企業が存在しているものです。好きなことの核心を突いた仕事でなく、その周辺の仕事でも十分に満足できることはあると思います。例えば、野球の場合、たとえプロ野球12球団の選手にはなれなくても、コーチになったり、スカウトマンになったり、野球道具を扱う仕事をしたり、球場関係の仕事をしたり、スポーツ新聞の野球担当になったり、野球界からは少し離れますが、スポーツ関連の企業や仕事に進んだり、野球選手からは少し離れたところでも十分に仕事への楽しさややりがいを持つ仕事を見つけることが

できると思います。音楽やエンターテインメントの世界でも同じことが言えます。スポットライトを浴びる仕事だけがすべてではないことは右ページのリストを見れば一目瞭然です。一言で音楽業界を言っても、これだけ多くの、もしくはこれ以上の仕事が存在しています。

例えば、お寿司を食べるのが大好きな人がい

## 「好き」を仕事にしよう！

たとします。できれば、将来は好きなことの仕事に就きたいと考えて、お寿司に関連する思いついた仕事をリストアップしたのが、下の箇条書きです。お寿司ひとつをとっても、これだけ多様な仕事が存在していると思います。実際はもっとたくさんの仕事があるでしょう。そして、お寿司に関連する仕事ひとつでも、職種によって身につけておくべき能力は多種多様ですので、当然のことながら、高校卒業後の進路も変わるはず。漠然と構わないので、進みたい業界や職業を絞り込んで、次の中でのどうい

職種に興味があるかを考えて、その分野で楽しく仕事をしたり、成功するために必要と思われる能力を身につけられる進路を選ぶと良いと思います。

将来の進路はいつでも、途中で変えられます。行き先に当ての無いドライブと行き先がコロコロと変わるドライブは似ているようで、実はその意味がまったく違います。将来の仕事に関して、今の段階からガチガチに考えておく

ことはありませんが、クルクルでいい加減な気持ちでいると、あっという間に時間が過ぎ去ってしまいます。1つの仕事に対して一途になって成功した人もいれば、何度も転職を繰り返した末に、成功を手に入れた人もいます。しかし、なんとなくボーッと毎日を過ごして成功した人はいません。途中で路線を変更しても構わないので、毎回真剣に向き合うことが大切です。皆さんは可能性に満ち満ちています。ぜひ豊かな人生を送ってください。



### お寿司に関する仕事の例

- ・お寿司の作り方を極めたい → 寿司職人
- ・お寿司の作り方を教えたい → 寿司学校の指導者
- ・お寿司を食べて客が喜ぶ顔を見たい → 寿司店勤務(接客業)
- ・寿司屋を経営したい → 経営者
- ・寿司屋を支援したい → 魚の卸業者、調理器具メーカー
- ・魅力的な寿司屋の店舗を作りたい → 建築設計、施工業者
- ・おいしいお寿司になる魚を研究したい → 水産系の研究職
- ・おいしいお寿司を食べまくりたい → グルメ・レポーター
- ・お寿司や寿司店を紹介したい → メディア(プロデューサー)
- ・お寿司の文化を世界に伝えたい → 語学とコミュニケーションのスキル

# 職業としての音楽／エンタメ業界

## 音楽業界編

音楽業界はアーティストやミュージシャンを中心に、所属プロダクションやレーベル、ライブや音源の制作チーム、技術スタッフ、楽器製造、権利管理、そして、学校などの業種によって成り立っています。

### ミュージシャン

アーティスト、プレイヤー  
作詞家、作曲家、アレンジャー  
サウンド・クリエイター、スタジオ・ミュージシャン  
サポート・ミュージシャン  
マニピュレーター、ネット・ミュージシャン  
DJ、音楽ディレクター  
音楽プロデューサー、インストラクター  
音楽学校講師、音楽教師

### 楽器

楽器メーカー  
楽器クラフトマン  
楽器リペアマン  
ピアノ調律師  
楽器レンタル  
楽器販売店、販売サイト  
輸入代理店

### ライブ・イベント制作

イベント制作会社  
コンサート・プロモーター、舞台監督  
PA（音響）スタッフ、照明スタッフ  
舞台美術スタッフ、映像スタッフ、特殊効果  
楽器テクニシャン、ローディー  
ヘア・メイク、衣装  
コンサート・ホール、ライブ・ハウス  
リハーサル・スタジオ

## 音楽業界

### メディア

テレビ局、ラジオ局  
広告代理店、番組制作会社、  
音楽雑誌出版社、インターネット放送  
ホームページ制作、ユーチューバー  
サウンド・プログラマー、ミキサー、MA  
音楽雑誌編集者、音楽ライター  
音楽評論家  
ミュージック・ビデオ制作  
カラオケ音源制作  
動画配信

### レコーディング

レコーディング・エンジニア  
マスタリング・エンジニア  
サウンド・プロデューサー  
音楽ディレクター、楽器テクニシャン  
レコーディング・スタジオ  
マスタリング・スタジオ  
ジャケット・デザイン、CD プレス  
CD ショップ、配信サイト

### プロダクション

アーティスト・マネジメント、プロデュース  
スケジュール管理、新人発掘、育成、プロモーション  
ホームページ作成、グッズ制作、ファンクラブ運営  
音楽著作権管理会社、音楽出版社  
音源制作の企画、営業、宣伝  
新人発掘、海外レーベル代理店  
音楽プロデューサー

### 教育機関

音楽大学  
芸術大学  
音楽専門学校  
音楽教室  
音楽コーチ

# YouTube の演奏映像を見るポイント

軽音協の YouTube チャンネルは、学内外での軽音楽部の宣伝や記念として活用していただくと共に、「他校との違い」を研究する良い材料になります。音楽的なチェック・ポイントを挙げてみますので、良いプレイは参考にし、まだまだな部分は反面教師として、部員たちと一緒に何度も見てモチベーション・アップ、ステップ・アップへとつなげてください。

## プレイ

大会において、いくら個人力より総合力（アンサンブルや演奏のまとまり）を重視して審査しても、やはり技術力が高い方が有利になることは間違いありません。単純に、上手なバンドの演奏を見るだけでも部員のモチベーションは上がると思います。「あんな風に歌ったり演奏してみたい」という憧れは、大きな原動力となるでしょう。しかし、本当に見るべきポイントは、「上手さ」ではなく「巧さ」です。高い技術力を使っているかに楽曲を表現し、アンサンブルにマッチさせているか。自己表現だけではなく、合奏のために身につけた技術を使っているか…は、研究してみる価値がある部分です。

また、賞を獲得するようなバンドに共通しているのが「リズムの良さ」です。個人個人もそうですが、バンドでのリズムの一体感をどれだけ重視しているかは、総合力として表れます。リズムの良さは、スタッカート、テヌート、音価、強弱、アクセント、シンコペーションといった音楽的な部分の習熟に表われるとも言えます。

## パフォーマンス

パフォーマンスと言っても千差万別ですが、「見られている」と「見せている」ではステージングに大きな違いが出ます。いわゆる「発表会」とポピュラー・ミュージックの「ライブ」では目指す目標が少し違います。軽音楽はエンターテインメントなので、何かを「伝える」意識も必要です。当然、慣れもありますが、ステージ内だけを気にして演奏しているのか、ステージの外の観客に向けて全員で何かを伝えようと演奏しているかは、大きな差となって出てきます。

初歩の段階では、リズムに乗って体を動かしたり、キメやアクセントを体が動くくらい大き

く捉える、他メンバーと合わせるべきところを体を使って行う…といったことを意識するだけでも見え方はだいぶ変わります。個人の例で言えば、しっかりと前を向いてプレイしているか、顔の表情を意識しているか、演奏中にメンバーとアイ・コンタクトを取っているか、歌ったり演奏していない時に気が抜けていないか…などもチェックしてみてください。特にフロント・マンであるボーカリストは、手の使い方や視線なども重要です。

## 機材、サウンド・メイク

ギター・アンプやベース・アンプといった大会の常設機材は、普段学校で使っているものと違う機種になります。同じ型番であっても個体差があるので音は変わります。当日にあたふたしないためにも、現在ではエフェクターを使って音を作り、アンプによる音の変化を少なくすることが一般的です。使用機材が一緒なのにも関わらず、バンドごとにサウンドが違うことや、楽曲に合った音作りをしているかも注目して欲しいポイントです。

ギターとベースは、チューニングにも注意が必要です。初心者の場合はそこまで気がまわっていないことも多々あります。また、楽器本体の調整ができていなかったり、変則チューニン

グに全員が合わせていなかったりすると、せっかくの演奏も台無しになってしまいます。

サウンド面に関しては、キーボードも同様のことが言えます。キーボードを持ち込んだバンドは、音色の調整をしていることがほとんどです。また、ドラムのペダルやスネアも普段との違いに苦しむ可能性があります。スネアやペダルを持ち込んでいないドラマーは、違和感を感じながらプレイしているかもしれません。

## 楽曲

コピーの場合、注意が必要なのは「選曲」です。レベルに合っていない楽曲であれば、ミスが多くなるのも当然です。挑戦と確実性とのバランスが難しいですが、各バンドのレベルと選曲をアナライズしてみても面白いと思います。

また、全国ではオリジナル曲を作っている学校やバンドが増えています。楽曲自体の良し悪しではなく、その「創作過程」を推し量ることも参考になります。メンバー間で意見を出し合い、きちんと「揉め」ながら1つの作品を作ってきたか、お互いを尊重しながら自分の居場所を理解し、「One for All, All for One」になっているか、皆んなでメッセージを伝えようとしているか…といった辺りを探っていくと、バンドとしてのまとまりが見えてきます。



第3回 高等学校軽音楽コンテスト 中部大会 グランプリ  
カカオ 52% / 愛知県立岩倉総合高等学校 (演奏曲: 透明人間 / 東京事象) 【第3回 高等学校  
軽音楽コンテスト 中部大会】



第8回 愛知県高等学校軽音楽大会 奨励賞  
すずらん / 名古屋経済大学市邨高等学校  
大人数でのオリジナル曲。演奏のまとまりが強み

# YouTube チャンネル始めました。



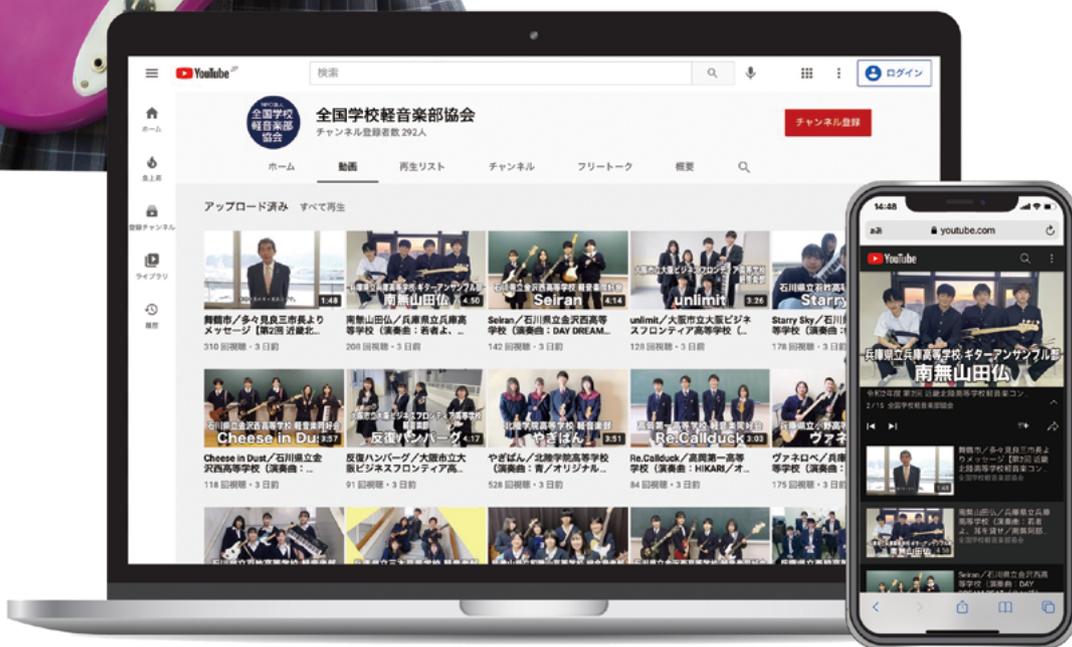
軽音協



チャンネル登録してね!

## 3大会 54バンドの 演奏映像を公開中!

第8回 愛知県高等学校軽音楽大会  
第3回 高等学校軽音楽コンテスト中部大会  
第2回 近畿北陸高等学校軽音楽コンテスト代替企画  
再生リストから1バンドずつ視聴できます。



他校のバンドの  
演奏から学ぼう!

特定非営利活動法人

全国学校軽音楽部協会

keionkyo.org



Facebook



# 部活動運営の8つの提案

「軽音楽部」は現在、かつてないほどの注目を集めています。しかし、しっかりとした運営スタイルが確立されている運動部や吹奏楽部などに比べると、学校や世間から市民権を得るまでには、まだまだ時間がかかりそうです。春になると、今まで後輩だった1年生が部活動を牽引する「先輩」となり、新入部員を迎える時期になります。この機に「軽音楽部の在り方」や「部活動とは何か」などを、新入部員を迎える準備と共に様々な角度から考えてみてはいかがでしょうか。

## 提案1 「軽音楽部とは何か」を再確認する

軽音楽部は「部活動」です。すなわち軽音楽部は、軽音楽（ロック、ポップス、広義ではジャズなども含む）を通して生徒の成長を育むことが目的です。近年、軽音楽部が注目されてきている理由は、単なるブームや軽音楽の大衆化だけではなく、関係者の中で「責任感や連帯感の育成」として軽音楽が適していると認知されてきたことと、そしてそれを周囲に理解してもらうための顧問の皆さんの努力があったからだと思います。

軽音楽部は他の部活動と大きく違います。アンサンブルでは運動部のような連帯感や責任感が必要で、オリジナル曲の制作には絵画部のような創作性が必要です。しかも、それを基本的にバンド単位やユニット単位というチームで行うスタイルは、今までになかった新しい部活動の姿であり、生徒の育成にとって最も有効な活動と言えます。

また、軽音楽部の活動内容は、楽器を習得することやバンド単位で演奏することだけではありません。ライブイベントでは大きなステージで演奏することができ、部員が全体の企画運営から音響・照明も行います。CD制作を行っている学校では、レコーディング機材も部員が扱う場合もあり、普通のバンド活動では、なかなかこうした機材の扱いやスタッフ側との連携を知ることはできません。軽音楽を通して演奏以外の様々な知識や経験を得られることも「部活動」としての大きな利点です。まずは軽音楽部の特殊性と希少性、そして重要性を再認識するべきかもしれません。

## 提案2 新入部員の獲得方法を考える

当然のことながら、部活動は部員がいないと成り立ちません。入学式が終わってしばらくすると「部活動紹介」のような会が設けられると思います。ここでしっかりとしたアピールをすることが、より多くの新入部員獲得につながります。ほんの短い時間では「普段こういう練習をしています」とか「楽しい部活動です」といった話で終わってしまうことの方が多いと思いますが、短い時間で的確に新入生の心を掴むには、「初心者でも大丈夫」「全員ライブできます」「合宿やレコーディングをします（ない場合は合同イベントや大会出場などでも良いかもしれません）」といったことを強調して、安心感と期待感を持ってもらうことが大切です。部活動紹介の前に、部長を中心に「どんなことを」「どのように」伝えるのかを、しっかりとミーティングして何度も繰り返し練習しておくべきでしょう。

また、入部希望者が見学に来た時にガラガラとした練習風景や統率の取れていない姿を見せちゃって元の木阿弥です。新入生が思わず入部を決めてしまうような、しっかりとした「部活動」であることをこの時まで引き継いでおかなければなりません。

可能であれば「勧誘のポスターを自作する」「体験入部を行う」「新歓イベントを企画する」などのアイデアも有効だと思います。普段の練習場所、部室、機材、過去の実績などを見てもらう「ツアー」を組んだり、宣伝係などを任命して、生徒たちに自主的にアイデアを出させることも、部員としての責任感を持たせることにつながるかもしれません。

## 提案3 新2年生に「先輩」としての自覚を持たせる

1年間にわたり培ってきた、部の「運営手順」や「ルールの遵守」は、新年度を迎えるにあたり1度リセットされます。新入部員にこれらを1から教えていくために最も理想的なのは、顧問がいちいち口を出さなくても上級生たちが「先輩」として新入部員のケアをしてくれることです。特に今まで教わる側の立場だった1年生が、春からは上級生となって教える側になります。彼らがいかに「先輩」としての自覚を持ち、「部活動とは何か」を新入部員に伝えていけるかがカギとなります。

軽音楽部は、かつてのネガティブなイメージから脱皮して新たな時代へと向かっています。しっかりと「部活動」として成立している軽音楽部にするためには、生徒自身がどう考え、どう行動するかを常に意識しておく必要があります。良い面も悪い面も新入部員は先輩を参考にするものです。部活動の中だけではなく、部員の生活態度も重要となります。服装の乱れや挨拶の有無などに普段から気を付け、遅刻や欠席がない、成績が良いなど「ちゃんとした部活動なんだ」ということを部員たち自らが示し、新入部員の手本になるような行動をさせなければなりません。

## 提案4 部室の整理整頓

「部室」というものは、古今東西あまり綺麗なイメージはありません。機材や道具などが散乱し、壁に貼られた掲示物などは破れかけたまま。加えて部員の私物がとこせましと放置さ

れ、倉庫のようなホコリっぽい匂い…といった感じです。しかし、そこが狙い目となります。イメージが悪いからこそ、整理整頓されてイヤな匂いもなく、今後のスケジュールや連絡事項がキレイに掲示されている…といった部室であれば、初めて足を踏み入れる新入生の驚きは倍増です。部室の場所や環境は学校によって様々だと思います。機材置き場になってしまっている場合もあるでしょう。春休みは部室や練習場所の環境や状態を見つめ直す良いチャンスかもしれません。年度変わりに機材の点検や清掃をしておくことも必要です。使いやすく過ごしやすい、誰にでも自慢できるような部室にしましょう。

絵画部や書道部などの創作がメインとなる部活動の部室の壁には、部員の作品や研究発表などが掲示されていることが多いと思います。運動部が獲得したトロフィーや賞状は、学校の玄関ホールなどに飾られていたりもします。適した場所があることが前提ですが、軽音楽部でも部室の壁にライブの写真や制作したCDを飾るとか、イベント情報の告知を掲示するなど、部活動として盛んであることを示せるような部室にしていけることも、校内のポジションの確立への手助けとなるかもしれません。

## 提案5 「部則」を作る

ただ単に長く続いていることは「伝統」とは言えません。新入部員を迎える前に、まずは部員たちがこれまでの活動を振り返り、未来の軽音楽部の構想をしっかりと持つことが大切です。軽音楽部を今後どのような部活動にしていけるのか、どうしたら伝統ある部活動にしていけるのかをまとめて「部則」を作りましょう。既にちゃんとした部則がある学校もあると思いますが、まだ存在していない学校は、ぜひ検討してください。部則は軽音楽部の主旨であり、部員の指針です。主な内容としては、「これをしてはいけない」という禁制的なものでも、「こうあるべきだ!」という心得のようなものでも良いと思います。部員全員がそれを日頃から守っていこうと思える項目を作ることによって、部活動は結束し、良い上下関係を生むことにもつながるでしょう。

## 提案6 活動を「全員」で行う

一般的に、軽音楽部はバンドがいくつか集

まってできていると思われがちですが、最近ではそういったかつてのスタイルではない学校が増えています。軽音楽部への参加は「バンド単位」ではなく、あくまでも「個人」であり、バンドという形態は音楽を奏するためのチーム分けに過ぎません。軽音楽部の目的は「音楽を通しての育成」であって「バンド活動」ではないからです。

最近では、部員全員によるミーティングを毎日したり、全体練習（リズム・トレーニングや発声練習、スケール練習など）を行っている学校が増えています。これらによって基礎が上達し、それぞれの今後の課題が明確になり、また部活動としてしっかりとした上下関係の構築をすることができます。これらは明らかに良い効果を生み、実際に行っている学校の方がコンテストなどで上位に食い込む率が高いようです。

まず行うべきことはミーティングです。毎日の部活動の始めと終わりに部員全員が集まり、その日の予定や今後のスケジュールを確認し、問題点を話し合ったり反省会などを行うことによって、統率のとれた「部活動」となっていくと思います。ミーティングとまではいかなくても、部活動の始めと終わりに全員で挨拶するだけでも効果はあると思います。

全員参加によるリズム・トレーニングやパートごとの基礎練習は、バンド単位での練習時間を割いてでも行うべきです。目的は「技術的」及び「音楽的」な基礎の向上です。自分1人ではなかなかやらない基礎練習を、半ばムリヤリ行うことで音楽的な技術は確実に向上し、バンド練習の時に思いっきりクリエイティブな方面に没頭できるようになります。新入部員の中には楽器やバンドをやったことがないという人も多いためです。楽器の演奏方法や機材の扱い方、譜面の読み方、リズムの大事ななどの基礎を1から丁寧に教えていくことによって、新入部員も安心して部活動に参加できるようになると思います。

## 提案7 「連絡ノート」を作る

組織的にものごとを進めていく場合に、最も大事とされているのは「ハウレンソウ」と「PDCAサイクル」です。言うまでもなく、ハウレンソウとは「報告」「連絡」「相談」を略した言葉です。何をやるにしても必ず顧問や部長へのこの3つを怠らないようにします。危機管理などという大げさなものではありませんが、トラブル防止のためにも必ず守らせなくては

はいけません。

「PDCAサイクル」とは、Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Act（改善）を繰り返すことによって、活動をシェイプアップして発展させていくことです。これらがちゃんと行われていれば、必ず組織としてより良い軽音楽部になっていくはずですよ。

この「ハウレンソウ」と「PDCAサイクル」を行うのに最適なのが「連絡ノート」です。やり方は様々ですが、日々の練習の報告、成果、課題などを顧問の先生とやりとりしておくことや、今日の結果と反省を考へて「活動日誌」を書くことで、今後のモチベーションの向上にもつながっていきます。中にはSNSや部のブログを使って行っている学校もあります。SNSの運営には細心の注意が必要ですが、うまく機能すれば学校側や対外的にも部の活動を知ってもらう機会となり、保護者の皆さんや入学希望の方々にも軽音楽部をアピールすることができます。

## 提案8 「合宿」を行う

全国の軽音楽部の中には「合宿」を行っている学校も少なくありません。行うかどうかは別として、合宿を行えるということは、学校側が「ちゃんとした部活動」であると認めたという証でもあります。評判の悪い（イメージが悪い）部活動では学校側も合宿を認めてくれないのは当然です。逆に言えば、合宿が認められる部活動になって初めて「良い軽音楽部」になったということだとも言えます。

合宿では長時間の練習が可能で、余裕をもってバンド練習に打ち込めます。また、よく言う「同じ釜のメシを食う」ことによって、メンバー間や部員同士のコミュニケーションも深まり、部活動全体のレベル向上を含め様々な相乗効果をもたらします。夏休みに行えば、大会などに向けた最終調整という意味でも大きな意義を持ちます。



以上のことをこれから始めようとする、少しパワーがいるかもしれませんが、顧問の皆さんと部員全員が丸となって、新入部員に軽音楽部の素晴らしさと音楽の楽しさを伝え、軽音楽部のさらなる発展のために、ぜひできることから始めていきましょう。

写真で見る  
知っておくべき  
軽音楽部員の  
**基礎知識**  
ボーカリスト編



# 軽音楽部 2.0

～軽音楽部がさらに市民権を得るために～



その昔、昭和の時代のまだ軽音楽部が荒れていた頃、その地位を少しでも向上させるべく、生徒指導をされてきた顧問の先生方…今やベテランの領域だと思えます…のご苦労は大変だったと思います。そのおかげで、軽音楽部を取り巻く環境は格段に良くなりましたが、まだまだ他の部活動に比べると肩身の狭い感じは否めません。平成も終わり、令和には時代や環境に合わせた指導や楽器／機材の環境、生徒の意識改革などが必要ではないでしょうか。

文：三谷佳之（特定非営利活動法人 全国学校軽音楽部協会 理事長）

## ①部活動としての軽音楽部 規範は他の部活動と同様

軽音楽部は学校が認める部活動のひとつです。部の活動という限り、バンド単位ではなく、部として全体で活動することが基本になるはず。毎日活動していない、全体での練習をしない、バンド練習の入っていない部員は帰ってしまう、大会では出演するバンド以外は会場に足を運ばない…などは、他の部活動からすると不思議に思えることでしょう。校内での普通の部活動だけでなく、公式な部活動として高等学校文化連盟に軽音楽専門部を設置してもらうには、他の

専門部からの応援や信用がないと成り立ちません。それは部室での頑張り度合や大会での成績や表彰状ではなく、高校生として、部活動として、どのような活動をしているかが要だと思います。もちろん、生徒の生活態度や成績が影響することは言うまでもありません。

た際の副産物です。この3つは社会に出た際に役に立つスキルであり、これに長けた人を社会や企業が求めています。そんな素晴らしい部活動ですが、現在のところ、校内や社会的な地位があまり高くないのが残念です。

## ②軽音楽部の強みは 社会が求める人材の育成

軽音楽部では練習する楽曲を決めるところからメンバー同士の「コミュニケーション」が必要になり、いざ演奏するとなるとみんなで合奏するわけですから「チームワーク」が育まれ、オリジナル曲の作成は言うに及ばず、コピー曲のアレンジさえ、「クリエイティビティー」が磨かれることになります。つまり、「コミュニケーション」と「チームワーク」と「クリエイティビティー」を楽器演奏やバンド活動を通して学ぶことができ、高校生の人間形成に役立つのが軽音楽部の特長だと思います。楽器の演奏がうまくなったり、大会でグランプリを取ることは軽音楽部の主たる目的ではなく、もちろん、プロ・ミュージシャンの養成機関でもありません。それらは真面目に活動し



## ③ライブ活動 vs 部活動 営利事業と教育の一環

校外でバンドが演奏していると、それが校外で自由に活動する高校生バンドなのか、軽音楽部に所属するバンドなのかの区別は制服でも着ていない限り、難しいです。昨今、ライブハウスが高校生



バンドを集めたイベントを主催する機会が増えており、軽音楽部に所属するバンドも出演しているようです。軽音楽部のバンドが校外のイベントに参加する場合、それは校外活動となるわけですから、顧問の引率があるのか、部員全員で参加（応援）するのか、主催者は学校（顧問）を経由して参加を依頼しているのか…など、注意すべき点は少なくありません。また、出演する側にチケットノルマが生じたり、チケットを友達に購入してもらうことも出てきます。日本音楽著作権協会（JASRAC）ではイベントの主催や共催に株式会社が入っていると営利目的と看做すそうです。そういう意味では、部活動が民間企業の営利事業に加担してよいのか…という疑問が生じます。発表の場が少ないという理由も理解できますが、部活動である以上、他の部活動に並ぶ活動を心掛けるべきであり、目指すべきは公式な演奏会や大会であり、数が少ないのであれば増やす努力が先ではないかと思います。



#### ④顧問は部活動の運営者 発表の場の創出が急務

軽音楽部が部活動のひとつであり、教育的観点から欠かせないので、顧問に求められるものは技術指導ではなく、生徒指導だと思います。政府の「働き方改革」や文化庁の「文化庁活動の在り方に関する総合的なガイドライン」には、部活動の専門的な技術指導は外部コーチに委託し、顧問は辞書通りの顧問として、部活動の運営者になることだと言われています。技術指導から解放されることで、一般の教員でも軽音楽部の顧問を引き受けられるようになるはず。当協会では軽音楽部の指導に関するガイドラインを作成し、楽器やバンドの未経験者でも指導体制が作れるようにしたいと考えています。顧問は生徒指導や部活動の運営に徹し、技術指導は外部コーチや上級生が下級生に教えるというスタイルです。外部コーチによる指導ガイドラインやコーチ育成に関しては、音楽専門学校や音楽大学などと

協議しながら進めていきます。また、顧問の先生には演奏活動の発表の場や機会の創出に尽力を賜りたいです。複数の高校での合同演奏会や地域イベントへの参加など、教育の一環という観点を持った発表会を用意することで部活動らしい活動ができるようになると思います。



#### ⑤転ばぬ先の杖ではなく、 失敗もまた経験と考える

部活動の主目的が教育であり、人間形成であるなら、失敗をすることで学ぶことも少なくないはず。楽器の演奏がなかなか上達しなかったり、本番でミスしてしまったり、バンドのメンバーと喧嘩をしたり…いろいろな失敗の要素が待ち構えています。顧問自身、楽器演奏ができたり、バンド活動の経験者なら、練習方法や演奏方法に口出しをしたり、演奏会や大会の大事なシーンで楽器のセッティングに手を出したくなることもあると思います。しかし、危険であるという致命的なものを除いて、転ばぬ先の杖を差し出すのは生徒の学びの機会を奪ってしまうことになります。失敗は成功の元と言います。失敗しないでスイスイと前に進む生徒もいますが、あっちこちで失敗してしまう生徒も少なくないはず。失敗を回避する方法を教えることは生徒に「魚を与える」ことになってしまいます。生徒の将来を考えると、転ばせてしまい（失敗を経験させて）、転んだ理由を振



り、「魚の釣り方を教える（指導）」ことが大切ではないかをお願いします。

#### ⑥全国レベルで考える 統一ガイドラインづくり

軽音楽部の大会がトップダウンではなく、各地の実情に合わせてボトムアップで発展してきた結果、大会の呼称、演奏時間や持ち時間、ステージの楽器、審査基準や審査員の選び方など、規定（レギュレーション）が揃っていないのが現実です。詳細は本誌の20ページの「高等学校軽音楽系コンテストのアンケート集計」をご覧ください。軽音楽部のゴールは全国高等学校文化連盟に軽音楽専門部を設置することだと思います。現時点では全国的にルールを統一を決定したり、推進する組織はありません。地域ごとに大会があり、将来、その先にブロック大会や全国大会を位置させるのであれば、演奏時間、使用楽器、審査基準、審査員の選定などに統一性が求められるのではないのでしょうか。特に審査に関しては、軽音楽部の目的は新人発掘のオーディションではありませんので、普段から高等学校の軽音楽部との接点のない方が担当すると本質を見誤りかねません。地域によって採点基準が違うのも問題を生みやすいです。当協会では演奏時間をはじめ、標準的な使用楽器の推奨や審査基準や審査員選考のためのガイドラインを識者を交えて、考えていく予定です。



#### ⑦新しい軽音楽部に適した 楽器や機材選定と標準化

予算がふんだんにある軽音楽部は珍しいので、公費で揃える楽器や機材はバンドやプレイヤーのために最良のものではなく、現実的には、安く、多くの生徒が使えるものを選ぶべきではないかと思います。多くの大会やコンテストでは自分のギターは持ち込みますが、自分が慣れ親しん

だアンプでも持ち込むことは許されていません。転換時間の都合で禁止するのなら、地域や高校が違ってても使用する楽器や機材を統一しておくのが部員にとっては合理的ではないでしょうか。できれば、全国の軽音楽部の部室や大会で使われる楽器や機材が標準化され、統一されることが望ましいです。また、ドラムなどの生音の大きな楽器は校内や近隣の騒音問題に発展しがちですので、そういう高校は電子ドラムを使用することで問題解決を図るのが賢明だと思います。それが広まった場合、大会で電子ドラムを用意しておくのが公平な措置だと思います。当協会では、音を出さない「サイレント・スタジオ」と称した練習システムを提案しています。詳しくは本誌の24ページをご覧ください。

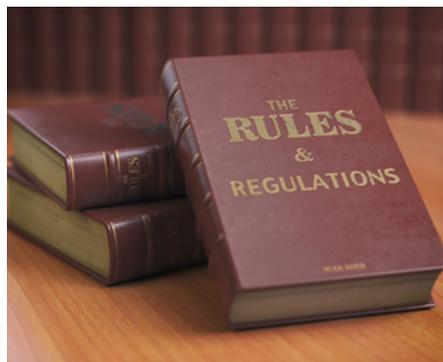


## ⑧ 連盟設立の初心に戻り 加盟校の意識を一枚岩に

現在、全国で2000余校ある軽音楽部の中で連盟や専門部に加盟している高校は4割に過ぎません。高等学校文化連盟に軽音楽専門部のある県は47都道府県中で12です。2年前に始まった総文祭の協賛部門での軽音楽部の発表会の火を絶やさないように、総文祭の先回りをするのも急務ではないかと思えます。しかしながら、今年の佐賀県はなく、来年から3年間は高知県→和歌山県→東京都と続きますが、その先の鹿児島県は難しいでしょう。その次の岐阜県は…協会では岐阜県での専門部の設立を目指して、過日、顧問集会を開催したばかりです。

各県の高等学校文化連盟に軽音楽専門部を設立してもらうには、その前段階として軽音楽連盟を組織し、活動を積み重ねて、他の専門部などの信頼を得る必要があります。その活動とは県大会の開催だけを指すものではなく、加盟校が一丸となって、情報交換や共有をし、軽音楽部を部活動として機能させることにあると思えます。大会に実施要項があるように、軽音楽部の普段の活動にも行動の指針となるルールとして

「軽音楽部はかくあるべき」という憲章が必要だと思います。もちろん、十人十色、十校十色です。ベクトルを揃えることは容易ではありません。しかし、「個々の事案に関しては各校の顧問の判断に従う」というスタンスでは、加盟校の足並みが揃わず、一枚岩になれません。軽音楽部が部活動として、さらに市民権を得るには、全国のどこの高校の軽音楽部でも同じような（ような…です）ビジョンやガイドラインを持って活動すべきではないでしょうか。



## ⑨ 部への帰属意識を高め 伝統や誇りを持たせる

軽音楽部では、バンド単位だけでなく、音響や照明、ステージスタッフや進行管理など、部としての活動において、チームワークを学ぶことができます。そこから先輩や後輩との上下の関係、同級生との横の関係…つまり、縦と横の結束を図ることができます。そういう場合に欠かせないのが帰属意識を高めるモノではないでしょうか。汗をかいたり、汚れたりする運動部ではユニフォームの着用は当たり前です。軽音楽部にはユニフォームを着込む必然性はありませんが、お揃いのTシャツくらいはあっても悪くないと思います（今後、学校名入りの缶バッジの制作を推奨していく予定です）。当協会が推奨している校名入りのギターケースやスティックバッグ



など、校外の高校生バンドではやれない、軽音楽部全員で校名入りの同じものを持つことで結束力や連帯感、帰属意識が高まり、そこから母校や軽音楽部に対する誇りや愛着、部の規律や伝統などが派生してくると思えます。

## ⑩ 支援という言葉の背景 公平性、中立性、継続性

学校や教育という特殊な環境を純粋に、本気で、支援するには営利団体が直接関与することは望ましくないと思ひ、特定非営利活動法人 全国学校軽音楽部協会を設立しました。大都市でも地方でも、全国的に「公平」な支援を受けられることが大切だと思います。また、支援に関しては、軽音楽部（員）が本当に有益なサービスの提供を受けられるように「中立」であることが求められると思ひます。さらに、それらの支援が年度や業績の変動に関係なく、「継続」して受けられることが大切です。③でも述べましたが、日本音楽著作権協会（JASRAC）ではイベントの主催や共催に株式会社が入っていると営利事業と看做されるそうです。特定非営利活動法人であろうと、教員や教育関係者ではないという点では民間と同一視されると耳にしたこともありますが、当協会のような存在は過去になかった。状況判断が難しいと思ひます。これまでの、そしてこれからの活動を実績にして、信用を得られるように努めていきます。

私は高校生が、音楽やバンド活動を通して、楽しい学生時代を送り、豊かな人生を歩んでくれることに大いに期待しており、そのお手伝いに関与できることを幸せに感じています。軽音楽部が一朝一夕に市民権を得られるとは考えておりません。少なくとも20年は掛かるでしょう。でも、千里の道も一歩からと言ひます。前に進まなければ意味がありません。ここに書いたことは私見ですが、顧問の皆さんの議論のきっかけになれば幸いです。



# 「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」 と軽音楽部の接点

平成30年12月に文化庁によって策定された「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」は同年3月にスポーツ庁より策定された「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」に準じています。これらは近年、部活動に関しての様々な問題に対して検討されたもので、本来、部活動は教育の一環であり、社会人としてのスキルを学ぶためのものだという考え方が根底にあります。軽音楽部には、文化庁のガイドラインとの接点を多く見ることができます。その接点のいくつかを一覧にしてみました。

特定非営利活動法人 全国学校軽音楽部協会 副理事長 辻 伸介

## 文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン

### 1 適切な運営のための体制整備

#### (2) 指導・運営に係る体制の構築（抜粋）

イ 学校の設置者は、各学校の生徒や教師の数、部活動指導員の配置状況や校務分担の実態等を踏まえ、部活動指導員を積極的に任用し、学校に配置する。（中略）服務（校長の監督を受けることや生徒、保護者等の信頼を損ねるような行為の禁止等）を遵守すること等に関し、任用前及び任用後の定期において研修を行う。

ウ 校長は、文化部顧問の決定に当たっては、校務全体の効率的・効果的な実施に鑑み、教師の他の校務分掌や、部活動指導員の配置状況を勘案した上で行うなど、適切な校務分掌となるよう留意するとともに、学校全体としての適切な指導、運営及び管理に係る体制の構築を図る。

カ 都道府県、学校の設置者及び校長は、教師の文化部活動への関与について、「学校における働き方改革に関する緊急対策（平成29年12月26日文科科学大臣決定）」及び「学校における働き方改革に関する緊急対策の策定並びに学校における業務改善及び勤務時間管理等に係る取組の徹底について（平成30年2月9日付け29文科初第1437号）」を踏まえ、法令に則り、業務改善及び勤務時間管理等を行う。

## 教師の負担軽減と外部人材の参画

軽音楽部では、他の部活動のように「レギュラーと補欠」という図式ではなく、全員がそれぞれバンドというグループに所属して活動します。もちろん、各パートごとに別れて基礎練習などを行うこともありますが、先輩バンドが後輩バンドにアドバイスをする、異学年と一緒にバンドを組むなど、軽音楽部ならではの先輩後輩の良好な関係が生まれやすく、自然と異学年の交流が盛んになります。

また、基本的に生徒の自主性・主体性が不可欠な軽音楽部においては、今後、部活動指導員をはじめ外部人材の積極的な参画が進めば、さらに教師の負担軽減につながります。顧問の指導に頼りすぎず、生徒だけでも持続可能な運営体制が確立されます。

## 文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン

### 2 合理的でかつ効率的・効果的な活動の推進のための取組

#### (1) 適切な指導の実施（抜粋）

イ 文化部活動の指導者は、（中略）過度の練習が生徒の心身に負担を与え、文化部活動以外の様々な活動に参加する機会を奪うこと等を正しく理解するとともに、生徒の芸術文化等の能力向上や、生涯を通じて芸術文化等に親しむ基礎を培うことができるよう、生徒とコミュニケーションを十分に図り、生徒がバーンアウトすることなく、技能等の向上や大会等での好成績などそれぞれの目標を達成できるよう、分野の特性等を踏まえた合理的でかつ効率的・効果的なトレーニングの積極的な導入等により、休養を適切に取りつつ、短時間で効果が得られる指導を行う。（後略）

### 4 生徒のニーズを踏まえた環境の整備

#### (1) 生徒のニーズを踏まえた文化部の設置（抜粋）

ア 校長は、学校や地域の実態に応じて、現在の文化部活動が、性別や障害の有無を問わず、生徒の多様な潜在的なニーズに必ずしも応えられていないことを踏まえ、技能等の向上や大会等での好成績以外にも、友達と楽しめる、適度な頻度で行える等、生徒が参加しやすいような多様なレベルや生徒の多様なニーズに応じた活動を行うことができる文化部を設置する。（後略）

## 合理的、かつ効率的・効果的な活動と生徒のニーズ

軽音楽部はバンドごとに活動するため、楽器の演奏技術向上や合奏することに重きをおきたい、ライブを行うことや大会に出場することを目標にしたい、オリジナル楽曲作成やレコーディングを行って音源制作に力を入れたい…といった、多様なニーズに応えることができます。やり方によっては、期間を設けて様々なことにチャレンジしたり、各々が自由に活動を広げることができ、部活動への過度な傾注やバーンアウトすることなく、軽音楽という文化芸術活動を続ける基礎を育みます。

また、軽音楽部に性別や障害による差別はなく、メンバー間に活動への温度差が生じたりした場合でも、チーム分けを変更すれば、部活動を継続させることも可能です。

## 文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン

### 4 生徒のニーズを踏まえた環境の整備（抜粋）

#### (1) 生徒のニーズを踏まえた文化部の設置

イ（前略）単一の学校では特定の分野の文化部活動を設けることができない場合には、生徒の部活動参加の機会が損なわれることがないように、複数校の生徒が拠点校の部活動に参加する等、合同部活動等の取組を推進する。また、持続可能な活動を確保するため、長期的には従来の学校単位での活動から一定規模の地域単位での活動も視野に入れた体制の構築が求められる。（後略）

### 4 生徒のニーズを踏まえた環境の整備（抜粋）

#### (2) 地域との連携等

ア 都道府県、学校の設置者及び校長は、家庭の経済状況にかかわらず、生徒が芸術文化等の活動に親しむ機会を充実する観点から、（中略）地域の人々の協力や体育館や公民館、美術館・博物館などの社会教育施設、劇場、音楽堂等の文化施設の活用や芸術文化関係団体・社会教育関係団体等の各種団体との連携、保護者の理解と協力、民間事業者の活用等による、学校と地域が共に子供を育てるという視点に立った、学校と地域が協働・融合した形での地域における持続可能な芸術文化等の活動のための環境整備を進める。

## 合同部活動などの取り組みの推進

軽音楽部は活動の単位がバンドという小さなグループであるため、他の部活動よりも地域での合同部活動の展開も可能です。バンド同士の交流はもちろん、互いにメンバーを入れ替えるセッションなども比較的容易です。それは、コンダクターの指示や譜面どおりに演奏を再現することが目的ではなく、生徒自らがコード・ネームを使用したり、創作力を持って演奏することが多い軽音楽部だからできることです。他パートへアイデアを出し合ったり、合奏の構築を普段から自主的に行っているからこそ可能なことだと言えます。

また、同じ理由から、地域のお祭りや老人ホームへの慰問、公共施設での演奏会など、地域との連携が比較的容易です。機材のセッティングや片付けは大変ですが、ほとんどを電子楽器で行う軽音楽部では、場所や状況に応じた音量で演奏することが可能です。電子ドラムを使用してほぼ無音でライブを行ったり、アコースティック・ギターやカホンを使用して楽曲をイベント用にアレンジすることもできます。自らの演奏を不特定多数の観客に聴いてもらえるように努力することは、音楽を通じた文化芸術活動として、とても意義のあることです。

## 文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン

本ガイドラインは、生徒の視点に立った、学校の文化部活動改革に向けた具体の取組について示すものである。中学生及び高校生の時期は、生徒自身の興味・関心に応じて、教育課程外の学校教育活動や地域の教育活動など、生徒による自主的・自発的な活動が多様化していく段階にある。少子化や核家族化が進む中において、学校外の様々な活動に参加することは、実生活や実社会の生きた文脈の中で様々な価値や自己の生き方について考えることができる貴重な経験となり、幅広い視野に立って自らのキャリア形成を考える機会となることも期待される。また、生徒が多様な学びや経験をする場や自らの興味・関心を深く追究する機会などの充実につながるものである。

文化庁ホームページから検索できます。  
<https://www.bunka.go.jp/index.html>

文化部活動ガイドライン

検索



文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン

平成30年12月



# 軽音楽部の大会における統一審査基準（案）

愛知県高等学校軽音楽大会、高等学校軽音楽コンテスト中部大会において実施中

## 1. 審査の方向と基本的な考え方について

- 軽音楽部の大会は部活動の延長線上にあるため、部活動として「本番までにメンバー全員で何を積み上げてきたか」「全員で良いステージを作れたか」を主な審査の対象とする。
- 個々のテクニックや才能よりもアンサンブルを重視し、全員で同じ目標に向かってきたかという「チームワーク」や「チームプレー」を審査する。
- 将来性、個別のアクシデントや諸事情などは考慮せず、当日のステージの完成度のみで審査する。個人の楽器トラブルなども場合によっては審査の対象とする。
- 軽音楽部はバンド演奏を通じて「コミュニケーション」を学ぶ場でもあるので、バンド形態での出場を原則とする。

## 2. 楽曲のカテゴリーについて

- 演奏する楽曲がオリジナル楽曲なのかコピー楽曲なのかは問わない。ただし、「クリエイティビティー」が特徴である軽音楽部の大会においては、オリジナル楽曲である方が望ましい。
- コピー楽曲の場合、審査員がその楽曲を既知かどうかで評価が変わる可能性があるため、原曲との違いで評価しない。
- カバー楽曲の場合、あくまでも「アレンジ」と捉えてオリジナル楽曲とは認めない。ただし、アレンジに対するオリジナリティーやクリエイティビティーは審査の対象とする。
- オリジナル楽曲の場合、審査員の好みによって評価が変わる可能性があるため、楽曲の良し悪しで評価しない。  
※ケースによっては、楽曲の音楽性や良し悪しを通常審査とは別枠で「楽曲賞」を設けることで評価することもある。

## 3. 審査項目について①

### 合奏力

その楽曲を「演奏」するために必要なことを、メンバー全員でどれだけ突き詰めて練習してきたか。また、披露できていたかを審査する。単純に個々の技術の評価するわけではない。

- ① **テクニック** -----
- メンバー全員がその楽曲を演奏するための技術をどれだけ習得していたか。
- 個人のハイレベルなテクニックは合奏にそぐわなければ評価しない。ただし、何もしないことが良いわけではない。
  - コピー楽曲の場合、原曲に忠実かどうかよりも「良い合奏」を目指していたかを評価する。
  - オリジナル楽曲の場合、個々のフレーズのアイデアやセンス、オリジナリティーなどはここでは評価しない。そのフレーズを表現するための演奏技術のみで評価する。  
※部活動は単に技術の向上が目的ではなく、「技術は合奏のため」という意識を育てる。  
※選曲やレベルに合ったアレンジなどをメンバーで協力して考える意識を育てる。

- ② **リズム理解** -----
- メンバー全員がその楽曲を演奏するためのリズム（テンポ、グルーブなどを含む）をどれだけ理解していたか。また共有、及び披露できていたか。

- 全員がリズムの共有をしていたかを評価する。
- 楽曲に合ったテンポで演奏し、全員でテンポ・キープができていたかを評価する。
- 原曲に忠実かどうかよりも「良い合奏」を目指していたかを評価する。  
※各々がテンポ・キープ、リズム・キープをする意識を育てる。  
※音楽にはリズムが伴っていなければならないという意識を育てる。  
※ポピュラー・ミュージックにとって大事な「グルーブ」への意識を育てる。
- ③ **セオリー** -----
- メンバー全員がその楽曲を演奏するための音楽的知識をどれだけ習得していたか。また共有、及び演奏できていたか。
- 個々のフレージングにおいて、キー、構成、和音、コード進行などが理解できていたか。
- コピー楽曲の場合、原曲に忠実かどうかよりもハーモニーとして成立していたかどうかを評価する。原曲が音楽理論上、あるいは聴感上、音の重ね方などがおかしい場合であっても考慮しない。
- オリジナル楽曲の場合、コード・アレンジのアイデアやセンス、個々のフレージングなどのオリジナリティーはここでは評価しない。メンバー全員の和音への理解を評価する。  
※各パートのフレーズが絡み合って音楽ができていくという意識を育てる。  
※キー、スケール、コード、コード進行などの必要最低限な音楽的知識の必要性を育てる。

### 3. 審査項目について②

#### 表現力

その楽曲を「表現」するために必要なことを、メンバー全員でどれだけ突き詰めて練習してきたか。また、披露できていたかを審査する。

#### ①イメージ共有

メンバー全員がその楽曲の歌詞や世界観、感情、ダイナミクスをどれだけ理解し、また共有して、どれだけ独自性を出しながら演奏できていたか。また表情やステージングなどで演出し、表現できていたか。

- 例え、音楽理論上は奇抜なフレーズであっても、楽曲の表現として成り立っていれば評価する。
- 個性に関するオリジナリティーはオリジナル楽曲の場合もコピー楽曲の場合も、歌唱や演奏が音楽的かどうかを重視し、評価する。
- 派手に動きまわることや動かないステージングなどは楽曲にそぐわなければ評価しない。楽曲のイメージに合ったステージングやパフォーマンスができていたかを評価する。
- 客席に音楽や楽曲に含まれるメッセージなどを伝えようとしていたかを評価する。
- きちんと演出されていたかどうかではなく、メンバー全員が1つになってドラマを作ろうとしていたかを評価する。

※自己満足で終わらず、全員で人に何かを伝える演奏を目指す意識を育てる。

※人前で演奏するという事は楽曲を聴いてもらうためだけでなく、ステージを見てもらうことでもあるという意識を育てる。

#### ②バランス

ステージ上でメンバー同士が連携を取りながら演奏できていたか。各パートの音量や音色、音の定位、音域などのバランスが取れていたか。

- 演奏中、お互いを意識して「合わせよう」としていたか。アイコンタクト、ミスやトラブルのフォローなども評価の対象とする。
- テーマ・メロディーやソロなどの音量や音色は適切で、押し引きができていたか。
- それぞれがその楽曲の合奏に合う音作りができていて、歌を含むすべてのパートがきちんと聴こえていたか。
- チューニングが合っていたか。
  - ※自分が全体の中の1人であり、アンサンブルの中でどう演奏すれば良いかという意識を育てる。
  - ※音楽は「音」として全員で奏でるものであるという意識を育てる。
  - ※楽器を「楽器」として扱い、本番に向けたメンテナンスや調整の必要性を理解させる。

### 4. 審査方法と賞について(例)

- 審査員3名(1名は審査員長)が上記の考え方にに基づき、総合的な審査を点数によって行い賞を決定する。同点だった場合は審査員、及びコメンテーターによって協議され、最終的に審査員長が判断する。
- 審査員は各バンド演奏終了後に講評し、アドバイスシートに全体的なアドバイスを記入する。コメンテーターは審査には関わらず、パートごとのアドバイスをシートに記入する。
- 審査の点数は開示し、アドバイスシートは各校へ渡すことによって今後への意欲につなげる。
- 出場するバンド数が多く、演奏楽曲にオリジナル楽曲とコピー楽曲が混在する場合の部門分けやオリジナル楽曲の優秀性を審査しての「楽曲賞」の授与、各パートごとの「個人賞」の授与など、ケースによってのアレンジは可能とする。

#### ①各賞の例

グランプリ	1バンド
準グランプリ	1バンド
第3位	1バンド
奨励賞	3バンド
楽曲賞(オリジナル楽曲のみ)	1バンド
個人賞	各1名
ベスト・ボーカリスト	
ベスト・ギタリスト	
ベスト・ベーシスト	
ベスト・ドラマー	
ベスト・キーボーディスト	

ベスト・プレイヤー

(上記以外の楽器演奏などで優秀な生徒がいた場合)

#### ②楽曲賞

オリジナル楽曲において、歌詞、メロディー、コード進行、バンドアレンジ、パートアレンジなどを含め、総合的に優れていたグループに贈られる賞。

- 作者個人ではなく、グループに贈るものとする。
- 個人、及びバンドの演奏力や表現力は審査の対象に含まない。

#### ③個人賞

個人のテクニックや音楽的センスが優れていた生徒へ贈る賞。

- アンサンブルを無視した身勝手な演奏などは対象外とする。
- オリジナル楽曲やカバー楽曲の場合、個性やオリジナリティーも評価の対象とする。ただし、音楽的でない場合は評価の対象としない。

#### ④その他、演奏中止、審査対象外、失格になる場合もある。

- 危険行為を行った場合。
- あきらかに演者の行動が起因となる遅延があった場合。
- 誹謗中傷や暴言など、部活動にそぐわないMCや発言があった場合。
- その他、大会規定のルールを守らなかった場合。

# 軽音楽部の困っているに応えます。



個人の楽器や部室の機材、技術指導など  
お困りの際は、軽音協までお気軽にご相談ください。

まずはお電話を… TEL : 045-913-0901 E-mail : info@keionkyo.org

## 騒音問題はサイレント・システムが解決

バンド練習も個人練習も、外に音を出さない。新しい時代の軽音楽部の練習環境と機材。

### 軽音楽部のオール電化計画



紹介映像



デジタル・ミキサー  
ZOOM / L-12



電子ドラム  
Roland / TD-1DMK

本当に出音は小さいのか？ 操作は難しくないのか？ 実際に試したい方は軽音協までお電話ください。

